

平成 1 4 年度

独立行政法人国立美術館  
京都国立近代美術館

実績報告書

# 目 次

## 京都国立近代美術館の概要

### 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 収集・保管・・
- (1) 美術作品の収集（購入・寄贈・寄託）の状況・・・・・・・・
- (2) 保管の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
- (3) 修理の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
  
2. 公衆への観覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
- (1) 展覧会の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
- 「常設展」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
- 「銅版画の巨匠 長谷川潔展」（企画展）・・・・・・・・
- 「日本画への招待 - 人・花・風景 - 」展（共催展）・・・・・・・・
- 「カンディンスキー展」（共催展）・・・・・・・・
- 「アメリカ現代陶芸の系譜 1950 - 1990 自由の国のオブジェとうつわ」（共催展）・・・・
- 「スーラと新印象派 - 光と点描の画家たち」展（共催展）・・・・・・・・
- 「クッションから都市計画まで - ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作連盟：ドイツ近代デザインの諸相 1900 - 1927」展（特別展）・・・・・・・・
- 「ウィーン美術史美術館名品展～ルネサンスからバロックへ～」（共催展）・・・・
- 「水辺の風景」展（国立美術館・博物館巡回展）・・・・・・・・
  
- (2) 貸与・特別観覧の状況・・・・・・・・・・・・・・・・
  
3. 調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
  
4. 教育普及・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
- (1) - 1 資料の収集及び公開（閲覧）の状況・・・・・・・・
- (1) - 2 広報活動の状況・・・・・・・・・・・・・・・・
- (1) - 3 デジタル化の状況・・・・・・・・・・・・・・・・
- (2) - 1 児童生徒を対象とした事業・・・・・・・・
- (2) - 2 講演会等の事業・・・・・・・・・・・・・・・・
- (2) - 3 友の会活動・・・・・・・・・・・・・・・・
- (3) - 1 研修の取組・・・・・・・・・・・・・・・・
- (3) - 2 大学等との連携・・・・・・・・・・・・・・・・
- (3) - 3 ボランティアの活用状況・・・・・・・・
- (4) 渉外活動・・・・・・・・・・・・・・・・
  
5. その他の入館者サービス・・・・・・・・・・・・・・・・

## 京都国立近代美術館の概要

### 1. 目的

当館は昭和38年に国立近代美術館京都分館として発足した。京都市による国立美術館の誘致運動が実現したものであり、当初は京都市の要望もあって工芸に主力を置く美術館として性格付けられたが、昭和42年に独立して京都国立近代美術館となってからは広く美術一般にその所掌範囲を広げて現在に至っている。なお、昭和61年には新館が竣工開館し、4階における常設展示がはじめて可能となって、3階の企画展示とあわせて、展示活動もより活発化し、これとともに常設展示に必要な作品の収集をより積極的に行うようになった。

当館に課せられた役割は、現代に繋がる美術の歴史を整理検討し、近代美術の将来の発展のために様々な活動を計画し実行することにある。その活動の分野は絵画、版画、彫刻、工芸、建築、デザイン等から写真に至るまで非常に広く、その活動範囲も日本全国の現代美術の振興に資することを目的とするものと幅広い。また、近代あるいは現代の美術を通じての海外との文化交流も任務の一端である。

以上の諸点を踏まえながら、当館は以下の方針のもとに事業を進めている。すなわち、分館当時、京都市の要望に応じて工芸に重点を置いて来た伝統を継承すること、日本の近代美術史の全体的な流れを展望しつつ主として関西で活躍した美術家を取り上げて、京都を中心とする近代美術の回顧、展望を試みることに、さらに変貌を繰り返す現代美術の動向を国際的な視点から把捉し、その様相の紹介に努めることである。これらの方針は、例年6～7回の特別展・企画展の開催、常設展示の実施及び美術作品や美術資料、図書その他の資料の収集などに反映されている。

### 2. 土地・建物

建面積	5,000.60m <sup>2</sup>
延べ面積	9,761.99m <sup>2</sup>
展示面積	2,604.94m <sup>2</sup>
収蔵庫面積	1,176.70m <sup>2</sup>

3. 定員 18人

4. 予算 499,301,666円

## 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 中期計画

- 1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。
  - (1) 各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化
  - (2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進
  - (3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進
  - (4) 外部委託の推進
  - (5) 事務のOA化の推進
  - (6) 連絡システムの構築等による事務の効率化
  - (7) 積極的な一般競争入札を導入
- 2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。

### 実績

1. 業務の一元化  
平成13年度から実施したものに加え、情報公開制度の共通的な事務の一元化した。
2. 省エネルギー等(リサイクル)
  - (1) 光熱水量  
通知文書の回覧、節電・節水のシールを貼付する等、職員に対し省エネルギーの啓蒙を行った。  
平成13年度と比較すると、電気使用量は節約し得たが、ガス、水道使用量は増加した。これは、入館者が前年度に比し8万6千人も増加したことにより空調設備に負荷をかけ、トイレ使用回数が増加したことによる。また、14年夏季が平年を上回る猛暑の為冷房を強力に行い、庭樹に散水を行ったことも要因である。しかし、光熱水料全体の金額比は7.1%減少している。これは、電気使用量の節約と電気・ガス使用量単価の低下によるものである。

ア. 電気 使用量	1,204,309kwh (前年度比 94.85%)	料金	23,201,653円 (前年度比 91.44%)
イ. 水道 使用量	7,759 m <sup>3</sup> (前年度比 108.70%)	料金	3,462,753円 (前年度比 114.00%)
ウ. ガス 使用量	117,514 m <sup>3</sup> (前年度比 103.20%)	料金	5,942,188円 (前年度比 88.86%)
  - (2) 棄物処理量  
一般廃棄物量の減少について、展覧会のディスプレイについて、展示資材の使用量を抑制し、これに伴い発生する廃棄物量も抑制した。  
産業廃棄物量の増加について、13年度の館内清掃・整理作業の際、廃棄物が大量に発生しなかったため、処分しなかった。今年度も作業を行い、13年度分と併せて産業廃棄物として処分した。館内LANによる通知文書の発信及び文書共有や会議資料他の両面コピー等によりペーパーレス化を推進した。

ア. 一般廃棄物	16,390Kg (前年度比92%)	料金	0円 (前年度比0%)
イ. 産業廃棄物	4,030Kg (前年度なし)	料金	313,950円 (前年度なし)
3. 施設の有効利用  
展覧会のイベントとして講演会やギャリートークを行い、他に団体鑑賞申込時に展覧会解説の申し出があれば、可能な限り、解説を行った。また、博物館実習、中学生のチャレンジ体験にも使用した。

講堂等の利用率	21% (77日/365日)
講演会	11回
鑑賞教室	5回
ギャリートーク	2回
ワークショップ	2回
展覧会解説	33回
チャレンジ体験	12回
博物館実習	8回

理事会等 4回

#### 4. 外部委託

下記の業務のほか新たに、電気・機械設備管理業務につき一般競争入札を導入し、外部委託を実施した。

- |           |              |                   |
|-----------|--------------|-------------------|
| 1. 設備管理業務 | 3. 機械警備業務    | 5. レストラン運営業務      |
| 2. 清掃業務   | 4. 収入金等集配金業務 | 6. ミュージアムショップ運営業務 |

#### 5. O A化

館内LANの整備状況

全館内に整備されており、各職員（含非常勤職員）が1台ずつパソコンを使用できる環境にある。

館内LANにより、サーバーに設けられている各係毎の共有文書ファイルが利用でき、また、電子メールにより事務連絡を行っている。

紙の使用量 254,000枚（前年度比95%）

A4 192,500枚

A3 16,500枚

B5 25,000枚

B4 20,000枚

#### 6. 一般競争入札 一般競争入札件数 7件（総契約件数 39件）

本来、美術館は所蔵作品を多数保有していると言う点、また、観覧者サービスと言う点から、一般競争入札は相応しくないが、経費節減に鑑み、清掃業務、設備管理業務他について一般競争入札を行っている。

- 1 京都国立近代美術館建物の清掃一式
- 2 京都国立近代美術館電気・機械設備運転管理委託
- 3 京都国立近代美術館受託美術品損害保険 一式
- 4 平成14年度国立博物館・美術館巡回展「水辺の風景」出品物の荷造運送
- 5 「ルマン・ムジウとドイツ工作連盟」展 ポスターB2 1,800枚 外5点の製造
- 6 「ルマン・ムジウ」展 図録3,500部の製造
- 7 「ルマン・ムジウ」展 展示工作等 一式

#### 7. (1) 評議員会

開催回数 1回

議事内容 平成15年3月7日（金）14時～

平成13年度事業評価の報告について、平成14年度年度計画にかかる実施状況について、平成15年度事業計画（案）について、平成15年度予算について、その他

#### 8. 特記事項

##### 1 効率化

##### (1) 業務効率化

業務の効率を上げるため、館職員全員が参加して行われる定例会議（隔週）上において、各業務内容の見直し、観覧者サービスの向上等を検討している。

日本語による館案内リーフレットの他に、新たに7カ国語の館案内リーフレットを作成することにより、外国人を含む観覧者へのサービスを図ると共に、観覧者対応の頻度が減少した。

##### (4) 外部委託の推進

これまでインターネット接続サービスは京都大学のネットワークを使用してきたが、これをインターネット接続の専門業者に依頼した。これにより、ハッカーやクラッカーによる、時には1時間に2万パケットという、攻撃よりサーバーやネットワークシステムを守ることができ、現在、安全に稼働している。

展覧会案内等の発送は郵便局に依頼してきたが、これらの一部を民間の宅配業者に依頼することにより、郵便料金より安価で発送を行うことができた。

##### (7) 一般競争入札の導入

今後も業務の見直しを行い、美術館の事業に影響を及ぼさない可能な業務があれば、効率化を経費節減のため、一般競争入札の導入していきたい。

##### 2 研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善

独立行政法人特有の会計処理、消費税計算の概要の研修会を行い、職員の資質の向上を図った。

## 自己点検評価

**【良かった点、特色ある取組み】**

前年度と比較して、数値的には増減があるが、全般的に効率化された。

**【見直し又は改善を要する点】**

前年度に比べて入場者数の増(約8万6千人)があったため、エネルギー使用量の増加があった。これは相対的な要因によるものでもあるが、作品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しながら、更に効率化の可能性について検討する必要がある。また、看視業務等の外部委託について、現在の質の維持、向上及びコスト面を念頭に置き、今後検討を行う。

**【計画を達成するために障害となっている点】**

開館より15年が経過し諸設備の経年劣化が目立ちはじめ、省エネルギーも思うように実施できない。設備を新規更新し得れば省エネルギー・効率化に資するものと思われる。

**国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成  
するためにとるべき措置**

**1. 収集・保管**

**(1) 美術作品の収集(購入・寄贈・寄託)の状況**

## 中期計画

(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。

### (京都国立近代美術館)

近代美術史における重要な作品など、近・現代の美術・工芸・写真・デザイン作品等を収集する。その際、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した収蔵品の充実に配慮する。

## 実績

1. 購入 95件
2. 寄贈 53件
3. 寄託 12件
4. 陳列品購入費 予算額 214,771,000円 決算額 218,471,667円
5. 特記事項

「京都派」に限定することなく、幅広く質の高い美術作品の収集にも取り組むようにとの指摘を受け、加守田章二や藤本能道の陶芸作品、京都出身ながら東京で活躍した戦前の前衛日本画家玉村方久斗の作品、世界的に活動を展開する今井俊満や堂本尚郎、宮本浩二、山田正亮らの作品、グラフィック・デザイナーとしての横尾忠則の全貌を示す一連のポスター、世界的写真家ユージン・スミスの作品、在日韓国人作家文承根や孫雅由の作品、オランダの現代作家フィオナ・タンの映像作品などの収集にも積極的に取り組んだ。

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

上記のとおり、評価結果に対応して「京都派」に限定することなく幅広い収集に取り組むとともに、京都を中心とする関西、さらには西日本を中心に活躍した作家の作品収集にも努め、八木一夫の前衛陶芸、富岡鉄斎、竹内栖鳳、都路華香、富田溪仙、西村五雲、福田平八郎ら戦前の京都日本画壇の中心作家の優品、洋画史に独自の地位を築いた須田国太郎の名品、戦後日本画の革新的画家山崎隆、下村良之介の記念的作品を収集した。また、孤高の日本画家伊藤仁三郎の作品及び資料を収集したことも、特定の美術史的意義のある作家の作品や資料の収集として当館の一連の特色ある取組みであった。これらの作品は当館コレクションの欠を補うものであるが、購入だけでなく、寄贈を受けることによって収集したもので、民間に所蔵されている作品を有効に活用できたものとする。また、新たに藤田嗣治、須田国太郎、川端実らの作品の寄託を受けるとともに、前年に引き続きルドンの《若き日の仏陀》を登録美術品として公開を続けているのも、同様の趣旨からである。

### 【計画を達成するために障害となっている点】

当館では作家、作家の遺族、コレクター等から積極的に作品や資料の寄贈を受ける努力をしているが、現在の税制上、作品を寄贈することで寄贈者に納税義務が生じることがあり、これは受贈を積極的にすすめていく上で障害となっている。

### \*添付資料

- 収集した美術作品の件数の推移（定量的数値推移一覧表 p.1）
- 寄託された美術作品の件数の推移（定量数値推移一覧表 p.2）

## (2) 保管の状況

### 中期計画

(2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実に図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実に図る。

(2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実に図る。

## 実績

### 1. 温湿度

#### (1) 展覧会場

空調実施時間 9:00～17:00

温度 冬季 $22 \pm 1$  夏季 $25 \pm 1$

湿度 冬季 $57 \pm 2\%$  夏季 $53 \pm 2\%$

\* 展覧会により設定は異なる。

\* 入館者が入ったときの温湿度管理について  
1日4回温度と湿度を測定している。

\* 24時間空調を行わない理由  
建物の設計上外気の影響を受けにくい構造であるため、閉館後空調を行う必要がない。

#### (2) 収蔵庫(24時間空調は行っていない)

空調実施時間 9:00～17:00

温度 冬季 $21 \pm 1$  夏季 $23 \pm 1$

湿度 50%(ただし、日本画・染織・漆芸は $57 \pm 2\%$ )

\* 24時間空調を行わない理由  
建物の設計上外気の影響を受けにくい構造であるため、閉館後空調を行う必要がない。

2. 照明 作品を劣化させる紫外線を含まない蛍光灯などの照明を使用している。

3. 空気汚染  
年2回ばい煙測定を行うことにより大気汚染物質を排出しないよう監視している。  
また、燻蒸は実施していない。

4. 防災 管理室・機械室において自動火災報知器により管理している。時間外は機械警備により管理。

5. 防犯 時間中は衛視による巡回警備を行い、時間外は機械警備により管理している。

#### 6. 特記事項

保存カルテ作成件数 148件

評価結果に対する対応

年間を通して適正な温湿度を保つ努力をしており、特に必要と認められる場合は、空調時間を延長し、時には加湿器を部分的に設置している。保存チェックについては収蔵庫からの作品の出し入れ(常設展示・貸出等)に際して、あるいは撮影に際して行い、必要に応じてカルテに記入するよう努めている。

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

収蔵品の保存及び管理環境の維持充実を図るため美術品の種類、保管場所等の違いにより、温湿度や照明等を適正に管理し、作品の劣化を最小限にとどめるよう努力しており、損傷もなく現在に至っている。展覧会場や収蔵庫は24時間空調を行っていないが、これは建物の設計上外気の影響を受けにくい構造であるため、閉館後空調を止めても作品保存の上で影響はない。むしろ現実に即した省エネ型の保存対応と考えている。

### 【見直し又は改善を要する点】

収蔵作品を充実させるべく積極的に取り組んでいるが、現在すでに作品は収蔵庫の許容量を超え始めており、収蔵品の充実と保管状況の間に無理が生じ始めている。ラックの増設が緊急の課題となっている。将来的には新収蔵庫の建設も視野に入れておく必要がある。

## (3) 修理の状況

## 中期計画

(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。

緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。  
伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。

(3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実に寄与する。

## 実績

1. 日本画 9件 洋画 4件 木工 1件

緊急に修復を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野毎に計画的に修復を行った。

2. 決算額 円(決算額については、追って記載)

3. 修理経費 予算額 15,921,000円 決算額 17,884,214円

4. 特記事項

データベース

修理報告書は各作品について作成しているが、データベース化については現在検討中である。

修理業者への指導

修理の方法について美術史的な観点から指導するとともに、鑑賞的な観点から表具や額装について指導を行っている。

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

収蔵時に修理を必要とするものであっても、そのために格安で購入したり、あるいは寄贈を受けることで、タイミングを逃さず収蔵することに積極的に取り組んでいる。そのため収蔵後数年を経て修理する場合もあるが、各年度当初において、中・長期的にみて緊急を要するもの(傷み具合、早期展示の必要性等)から順に修理を行うべく計画性をもって対応している。

### 【見直し又は改善を要する点】

作品の修理については、常に作品の状態を点検する体制にあることが望ましいが、このような仕事を専門的に行うレジストラと呼ばれる学芸職員を持たないため、点検上困難を伴うことがある。また修理についての専門的知識が少ないため修理技術についての指導が行いにくい状況である。

\*添付資料

修理した美術作品の点数(定量的数値推移一覧表 p.3)

## 2. 公衆への観覧

### (1) 展覧会の状況

#### 中期計画

- (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。
- (1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。
- (1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。

#### (京都国立近代美術館)

年6～7回程度

- (1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。
- (1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。
- (1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。  
なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。  
また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。
- (2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。
- (3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

#### 実績(総括表)

##### 1. 常設展

展示替 11回 目標入館者数 2万人 入場者数13,393人

##### 2. 特別展・共催展 7回

(中期計画記載回数：年6～7回)

(京都国立近代美術館)

「銅版画の巨匠 長谷川潔展」(平成13年度実績評価済み)

期間：平成14年2月21日(木)～4月7日(日)(全期間：平成14年2月21日(木)～4月7日(日))

入場者数：2,070人(目標入場者数：1千人)

(全期間入場者数8,807人(目標入場者数：9千人))

「日本画への招待 - 人・花・風景 - 」

期間：平成14年4月12日(金)～5月26日(日)

京都新聞社と共催

入場者数：27,878人(目標入場者数：1万2千人)

「カンディンスキー展」

期間：平成14年6月8日(土)～7月21日(日)

NHK京都放送局、NHKきんきメディアプランと共催

入場者数：67,047人(目標入場者数：5万3千人)

「アメリカ現代陶芸の系譜 1950 - 1990 自由の国のオブジェとうつわ」

期間：平成14年7月30日(火)～9月1日(日)

日本経済新聞社と共催

入場者数：8,354人(目標入場者数：1万人)

「スーラと新印象派 - 光と点描の画家たち」展

期間：平成14年9月10日(火)～10月20日(日)

NHK京都放送局、NHKきんきメディアプラン、読売新聞大阪本社と共催

入場者数：51,488人(目標入場者数：6万6千人)

「クッションから都市計画まで - ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作連盟  
：ドイツ近代デザインの諸相 1900-1927」

期間：平成14年11月2日(土)～12月23日(月)

東京国立近代美術館と共催

入場者数：12,842人(目標入場者数：1万人)

「ウィーン美術史美術館名品展～ルネッサンスからバロックへ～」

期間：平成15年1月11日(土)～3月23日(日)

NHK京都放送局、NHKきんきメディアプランと共催

入場者数：102,376人(目標入場者数：11万9千人)

3. 入館者数 272,055人(目標入場者数291,000人)

「銅版画の巨匠 長谷川潔展」「日本画への招待 人・花・風景」「カンディンスキー展」「クッションから都市計画まで ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作連盟：ドイツ近代デザインの諸相1900-1927」は予想を上回る入場者を得たが、「カンディンスキー展」を除く、NHKや日本経済新聞社などのメディアとの共催展の入場者が意外に伸びず全体として目標入場者には少し及ばなかった。しかし、常設展会場の一部で開催したため入場者数にカウントしていない「近代七宝の美 並河靖之の技」への入場者数(29,489人)を加えるならば目標を超える入場者(301,544人)になっている。

4. 国立美術館・博物館巡回展 1回 4,444人

5. 展覧会開催経費 予算額 138,136,000円 決算額 127,782,488円

6. 特記事項

展覧会の広報活動について、さらに充実するよう指摘を受けたが、従来通り展覧会毎に記者発表をすることにも、美術雑誌等に積極的に働きかけて周知に努め、また、(10) 渉外活動欄に実績として挙げた項目において積極的に企業等との連携をはかって広報活動に努力した。

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

近年、文化施設の入場者数は軒並みに減少傾向にあるが、美術館も例外ではない。そのような状況にあって、興行的傾向を強めることで、多くの入場者を獲得する方法もあるが、日本の美術館の本来あるべき姿を追求し、公立美術館の模範となるべき活動を展開することが国立美術館に求められているものとする。それは各館の性格を踏まえた上でなおかつ内容のある多様な展覧会を企画、実施することであるとするが、その意味で今年度はやや西欧のものにかたよったきらいがないでもないが、概ねバランスのとれた質的にも高い展覧会であった。

### 【見直し又は改善を要する点】

西欧美術の展覧会をもう少し少なくし、日本美術の紹介をする展覧会をより積極的に取りあげ、東西のバランスをより考慮したい。

\*添付資料

入館者数の推移(定量的数値推移一覧表 p.4)

入場料収入の推移(定量的数値推移一覧表 p.7)

## 「常設展」

### 方 針

4階展示場約1,200m<sup>2</sup>を所蔵品及び寄託品による、いわゆる常設展示場にあてており、年間約10回の展示替を行いながら所蔵作品等の各分野 - 工芸、日本画、油彩画、水彩画、素描、版画、彫刻、写真 - にわたって紹介している。

基本方針としては、近代日本の美術、工芸、写真について、系統的に展示することになっているが、未だコレクションが十全ではないことと、会場が決して広くはないために、十分な紹介は困難な状態にある。この欠を補うための収集活動（購入、寄贈、寄託）は積極的に行っているが、これは長い時間をかけるべき課題といえる。

このような状況を踏まえた上で、当館のコレクションの特徴となっている長谷川潔（版画）、河井寛次郎（陶芸）、世界の写真は常に作品を入れ替えつつ、特設コーナーにおいて常時鑑賞できるように努めているが、一方、常設展示に魅力を与えるべく小テーマを設定したテーマ展示も行っている。テーマの設定には3階の企画展との関連で決定するものと、全く単独で決めるものの2種類に大別でき、主な内容は次のとおりである。

#### ア 3階の企画展と関連するもの

- ・洋画家たちの滞欧作（銅版画の巨匠 長谷川潔展）
- ・浜田知明の銅版画（銅版画の巨匠 長谷川潔展）
- ・近代書家の墨象作品（カンディンスキー展）
- ・現代オランダの染織（アメリカ現代陶芸の系譜1950 - 1990）
- ・戦後の前衛陶芸（アメリカ現代陶芸の系譜1950 - 1990）
- ・日本の点描表現<日本画・洋画>（スーラと新印象派）
- ・現代のデザイン銀器（クッションから都市計画まで - ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作連盟: ドイツ近代デザインの諸相1900-1927）
- ・日本の人物表現<日本画・洋画>（ウィーン美術史美術館名品展）

#### イ 単独で企画したテーマ展示

- ・富本憲吉の陶芸
- ・アンセル・アダムスの写真
- ・野島康三の写真
- ・エドワード・ウェストンの写真
- ・藤田嗣治の油彩画
- ・大野倭高追悼
- ・玉村方久斗の日本画
- ・浅井忠と京都の水彩画
- ・近代七宝の美 並河靖之の技

## 実 績

### 1. 開会期間

平成14年4月2日～平成14年4月7日(6日間)(平成13年度分)  
平成14年4月9日～平成14年5月19日(36日間)  
平成14年5月21日～平成14年5月26日(6日間)  
平成14年5月28日～平成14年6月30日(30日間)  
平成14年7月2日～平成14年7月7日(6日間)  
平成14年7月9日～平成14年8月11日(30日間)  
平成14年8月13日～平成14年9月23日(37日間)  
平成14年9月25日～平成14年11月4日(36日間)  
平成14年11月6日～平成14年12月15日(35日間)  
平成14年12月17日～平成15年1月19日(21日間)  
平成15年1月21日～平成15年3月2日(36日間)  
平成15年3月4日～平成15年3月30日(24日間)  
計303日間(平成15年3月まで)(所蔵品展のみの開催期間41日間)

### 2. 会 場 4階常設展示場

### 3. 出品点数

122件	165件	182件	149件
132件	165件	172件	178件
168件	171件	181件	
延 1,785件			

### 4. 入館者数 189,648人(目標入場者数 160,000人)

うち常設展のみの入場者数 13,393人(目標入場者数:20,000人)

常設展のみの入場者数が目標を下回ったのは、特別展、共催展と常設展を同時に観覧する傾向が高いため。

### 5. 入場料金 一般420円(210円)、大・高生130円(70円)、中学生以下無料 ( )内は団体

### 6. 入場料収入(常設展のみの入場料収入の合計 2,362,400円)(目標入場料収入 2,754,000円)

### 7. アンケート調査

調査期間 平成14年4月2日～平成15年3月31日(307間)

調査方法 館内2箇所にアンケート箱を設置

アンケート回収数 3,675件

アンケート結果 ・良い34.8%(1,279件) ・普通25.8%(949件) ・悪い2.3%(84件)  
・無記入37.1%(1,362件)

### 8. 特記事項

「近代七宝の美 並河靖之の技」を特別小企画展として常設展の一部で開催し、常設展への入場者増をはかった。

## 自己点検評価

**【良かった点、特色ある取組み】**

常設展示はそれぞれの美術館のコレクションをダイジェストして紹介するものであるが、時に応じてテーマを設けての特設コーナーも好評である。アンケート調査によれば、常設展の内容について肯定的な意見は60%であり、おおむね好評であった。

**【見直し又は改善を要する点】**

上記より、＜常設展＞という名称そのものに、常に同じ作品が展示されているとの一般鑑賞者に与える誤解もあると考えられ、常設展についても魅力あるネーミングを考えるべきではないかと思われる。小テーマの設定、全体としてのネーミングについてさらに検討していきたいと考える。

## 「銅版画の巨匠 長谷川潔展」(企画展)

### 実績

1. 開会期間 平成14年4月2日(火)～4月7日(日)(6日間)  
(全期間:平成14年2月21日(木)～4月7日(日)(40日間))
2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場
3. 主催 京都国立近代美術館  
協力 財団法人堂本印象記念近代美術振興財団
4. 出品点数 197件
5. 入館者数 2,070人(目標入場者数:1千人)(全期間入場者数8,807人(目標入場者数:9千人))
6. 入場料金 一般600円(420円)/大・高生300円(210円)/中・小生以下無料 ( )内は団体
7. 入場料収入 775,620円(目標入場料収入525,000円)
8. 担当した研究員数 2人
9. 展覧会の内容 当館所蔵の長谷川作品(版画、油彩画、素描)のすべてを公開し、長谷川芸術の全貌を紹介
10. 講演会等 平成13年度事業として実施
11. 広報 ポスター、チラシの作成・配布、交通広告(京阪)、看板広告、パブリシティ情報掲載
12. 展覧会関連新聞・雑誌掲載記事等  
京都新聞社 平成14年3月9日(朝刊)「無限へ開く黒の空間 長谷川潔展」(深萱真穂)  
読売新聞社 平成14年3月23日(朝刊)「まち景色ひと模様 春愁ニッポンにサクラ咲く」(斎藤喬)

### 自己点検評価

平成13年度に評価済み。

# 「日本画への招待 - 人・花・風景 - 」展（共催展）

## 方 針

京都画壇を中心とした近代日本画の流れをたどることを目的とし、昭和42年の独立以来、現在までの約35年にわたり、当館が収集してきた日本画約650点の中から選りすぐった約150点を前・後期で陳列替えをしながら3階企画展示室と4階常設展示室の半分近くを使って展示した。展示作品の選定にあたっては、近代日本画の流れをたどりやすくするために、その大きな主題である人物、花鳥、風景に着目しつつ、各作家一点（前・後期入れ替えの場合は、計二点）を基本とした。また、同時期の東京画壇や水墨画の様子も参考にできるよう、それぞれコーナーを作った。また、平成9年度の土田麦僊展には修復中のため出品されなかった《三人の舞妓》を拝借して特別出品という扱いで、当館日本画コレクションの目玉の一つである大正期の京都の日本画家による女性を描いた作品と共に展示した。

## 実 績

1. 開会期間 平成14年4月12日（金）～5月26日（日）（39日間）
2. 会 場 京都国立近代美術館3階企画展示場
3. 主 催 京都国立近代美術館、京都新聞社  
後 援 京都府教育委員会、京都市教育委員会  
協 力 財団法人堂本印象記念近代美術振興財団
4. 出品点数 148件
5. 入館者数 27,878人（目標入場者数 1万2千人）

目標を大幅に上回った理由としては、次のような理由が考えられる。自己点検評価に記述した～のような配慮が観客に好評で、口コミにより広がった。充実した内容にも関わらず、所蔵品のみの展覧会であったため、普段の特別展に比べて安い料金で見られた。美術系大学の授業に利用された。普段の常設展示だけでは物足りなく思っていた日本画愛好者や近代京都画壇の研究者が集まった。展覧会タイトルが、日本画を知らない人にも入りやすい印象を与えた。

6. 入場料金 一般600円(420円)/大・高生300円(210円)/中・小生以下無料 ( )内は団体
7. 入場料収入 6,082,470円(目標入場料収入3,475,000円)
8. 担当した研究員数 2人
9. 展覧会の内容 当館所蔵の日本画作品約650点から名品を一堂に公開
10. 講演会等 2回 参加人数 129人（詳細は「教育普及」講演会等欄へ）
11. 広報 ポスター、チラシの作成・配布、京都新聞社を中心とする広報、交通広告（京阪、阪急、京都市バス・地下鉄）、看板広告、新聞広告、パブリシティ情報掲載
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等  
京都新聞社 平成14年4月10日（朝刊）6,7面「日本画への招待 - 人・花・風景 悠揚とした中に覚めた意識」（太田垣實）  
京都新聞社 平成14年4月20日（朝刊）「質高くきめ細かな美の精華 日本画への招待 - 人・花・風景」（太田垣實）  
朝日新聞社 平成14年4月27日（夕刊）「近代京都画壇の輝き映す 「日本画への招待」展」（森本俊司）  
読売新聞社 平成14年5月17日（夕刊）「文化 日本画への招待 - 人・花・風景 伝統受け継ぎ変革に挑む」（木村未来）
13. アンケート調査  
調査期間 平成14年4月12日（金）～5月26日（日）（39日間）  
調査方法 館内2箇所にアンケート箱を設置

アンケート回収数 413件

アンケート結果 ・良い69.2% (286件) ・普通22.3% (92件) ・悪い2.9% (12件)  
・無記入5.6% (23件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

今展を機会に、以前より要望の多かった所蔵日本画名品集を作成、発行した。図版掲載は約三分の一であるが、美術館関係者や日本美術史を学ぶ人々の研究に役立ててもらうため巻末に2002年2月までに収蔵された日本画全作品のデータを掲載した。このデータの洗い直しの過程で作品についての新たな情報を得ることができたのは、大きな収穫であった。また、改めて当館のコレクションを振り返ることにより、収集方針を再確認でき、更に今後どの部分を補填拡充していけばよいのかという事が明らかになった。

また、近年来落ち込んでいる日本画展への動員をどのように増やすべきかが課題になっていたが、今回その手始めとして日本画を初めて見る人にも優しい展覧会になるよう色々な試みを行った。例えば 作品を見ながら日本画への理解を深められるよう、日本画についての簡単な説明を会場で配る展示リストに挟み込む。 展示作品のキャプションに材質・技法を書き足す。 ガラスを通さずに日本画独特の色の魅力を堪能していただけるよう、展示するのが所蔵品のみであることの利を生かして、屏風作品も一部ケース外展示とする。 近代日本画壇の流れを一目で理解できるよう、系統図を作成する。等である。

上記のような配慮もあり、所蔵品のみでの展示であるにもかかわらず、最終的に総入場者数が目標値を2倍以上上回り、7割の方に満足していただけたことは大変喜ばしいことであった。

#### 【見直し又は改善が必要な点】

今後もこの結果に安心することなく、日本画展の観客動員を増やすための努力が必要と考える。

# 「カンディンスキー展」(共催展)

## 方 針

当館では1987年に大規模な「カンディンスキー展」を開催したが、その際、現在のロシアとその周辺からの出品作品はきわめて限られ、カンディンスキーの画業の全貌を知るには不十分であった。そこで今回は、ロシアを中心にこれまでわが国でほとんど紹介されたことのない作品に焦点を絞り、《コンポジション》《コンポジション》といった代表作を中心に、カンディンスキーがまさに抽象絵画へと踏み出す過程を浮き彫りにした。

## 実 績

1. 開会期間 平成14年6月8日(土)～7月21日(日)(38日間)
2. 会 場 京都国立近代美術館3階企画展示場
3. 主 催 京都国立近代美術館、NHK京都放送局、NHKきんきメディアプラン  
後 援 外務省、文化庁、ロシア連邦大使館、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会  
協 力 日本航空、アエロフロート・ロシア航空、フィンランド航空
4. 出品点数 74件
5. 入館者数 67,047人(目標入場者数 5万3千人)  
共催者のNHKによる会期中の連日の広報活動が大きな要因として考えられるが、何よりもカンディンスキーの代表作である2点の「コンポジション」の大作が含まれていたことが、入場者数の動員に結びついたのであろう。その意味でも展示内容の充実について好例となる展覧会であった。
6. 入場料金 一般1,300円(950円)/大・高生900円(510円)/中・小生以下無料  
( )内は団体
7. 入場料収入 17,453,560円(目標入場料収入13,900,000円)
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容 カンディンスキーが抽象画へと突入する過程に焦点をしばって紹介
10. 講演会等 4回 参加人数 364人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
11. 広報 ポスター、チラシの作成・配布、NHKを中心とする広報、交通広告(京阪、阪急、大阪市地下鉄)、放送、看板広告、パブリシティー情報掲載
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等  
朝日新聞社 平成14年4月16日(朝刊)「戦争の時代と共振、魂の躍動感 カンディンスキー展」(田中三蔵)  
毎日新聞社 平成14年4月17日(朝刊)6面「現代アート考 よみがえるカンディンスキー」(三田晴夫)  
読売新聞社 平成14年5月16日(朝刊)「潮音風声 具象と抽象」(笠原芳光 京都精華大額名誉教授)  
京都新聞社 平成14年6月24日(夕刊)2面「現代のことば 色彩の感度」(野村仁 美術家)  
毎日新聞社 平成14年6月24日(夕刊)「Art Scene カンディンスキー感覚」(小林昌寛 京都造形芸大助教授)  
産経新聞社 平成14年7月 3日(夕刊)6面「色彩と線描のシンフォニー カンディンスキー展」(早瀬寛美)  
京都新聞社 平成14年7月 6日(朝刊)「抽象絵画への道のり鮮明に」(太田垣實)  
読売新聞社 平成14年7月12日(夕刊)9面「具象と抽象 覆る先入観」(木村未来)  
朝日新聞社 平成14年7月13日(夕刊)「響き合う宇宙・音楽 カンディンスキー展」(森本俊司)
13. アンケート調査  
調査期間 平成14年6月8日(土)～7月21日(日)(38日間)  
調査方法 館内2箇所にアンケート箱を設置

アンケート回収数 1,623件

アンケート結果 ・良い76.8%(1,247件) ・普通19%(308件) ・悪い1.3%(21件)  
・無記入2.9%(47件)

#### 14. 特記事項

「抽象絵画」というなお一般の鑑賞者にとっては敬遠されがちなジャンルの展覧会でも、多数の入場者を集め得る可能性が認められた事例として貴重であった。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

当館に先立って開催された東京国立近代美術館の会場構成を意識し、同じ作品内容でありながらも、まったく異なった雰囲気醸し出されるように壁面の色を時代によって変化をもたし、作品配置にも十分留意し、とりわけおそらくは二度と同時に鑑賞の機会が得られないであろう2点の「コンポジション」の大作をはじめとする展示構成に重点を置いた。さらに一般の鑑賞者に対して、なお近づきがたい表現領域である「抽象画」という性格に配慮し、小学生とその親を対象に2度の鑑賞講座を開催して、館外でも広報普及の観点から解説会を開くなど多数の参加者を得ることができた。

#### 【見直し又は改善を要する点】

一部アンケートにも記されていたことではあるが、展覧会名称は「カンディンスキー展」だが、出品作品はカンディンスキーのミュンヘン時代からロシア時代という限定された時期に制作されたもののみで構成され、カンディンスキーの生涯を通しての回顧展ではなかったことを明記すべきであった点。但し、当館ではサブタイトルとして「抽象絵画への道1896-1921」とした。

# 「アメリカ現代陶芸の系譜1950 - 1990 自由の国のオブジェとうつわ」(共催展)

## 方 針

当館では、近・現代の美術のみならず工芸の歴史や新しい動向にも絶えず注目し、数多くの展覧会を開催してきた。この展覧会はアメリカ現代陶芸1950年 - 90年までの40年間を概観する展覧会であり、我が国において網羅的に紹介されるアメリカの現代陶芸としては初めての展覧会であった。

第2次世界対戦以前のアメリカ陶芸は、ヨーロッパを規範として技術を重んじる傾向が強かったが、戦後は状況が大きく変化した。ピーター・ヴォーコス、ルディ・オーティオらがそれまでの陶芸の技法的な常識を破るきわめて自由で彫刻的な陶芸作品を制作した。これらは1950年代、ニューヨークの美術界を風靡したジャクソン・ポロックからの行動の軌跡を示す作画法になぞらえて抽象表現主義的陶芸と称された。またセラミックが器物を連想することからクレイ・ワークとも呼ばれ、土を用いた新たな造形表現として注目された。また、浜田庄司の訪米を通じ、日本の民芸が紹介され民芸風の陶器が作られたり、日本の樂焼きにヒントを得た作品も制作された。さらに、マーケットの食品を焼きもので作るなどポップ・アート風の作品も現れてきた。

本展は、1950年代から90年代にかけて制作された63名の陶芸家による131点の作品を通して、戦後大きな変貌を遂げてきたアメリカ陶芸の約40年の歩みを紹介しようとしたものである。

## 実 績

1. 開会期間 平成14年7月30日(火)～9月1日(日)(30日間)
2. 会 場 京都国立近代美術館3階企画展示場
3. 主 催 京都国立近代美術館、日本経済新聞社
- 後 援 京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会
4. 出品点数 131件
5. 入館者数 8,354人(目標入場者数1万人)
6. 入場料金 一般1,100円(900円)/大・高生900円(500円)/中・小生以下無料  
( )内は団体
7. 入場料収入 1,342,000円(目標入場料収入2,780,000円)
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容 1950～90年にかけてのアメリカ陶芸の諸相を紹介
10. 講演会等 2回 参加人数143人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
11. 広報 ポスター、チラシの作成・配布、日本経済新聞を中心とする広報、交通広告(京阪電鉄)、看板広告、新聞広告、パブリシティ情報掲載
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等  
日本経済新聞社 平成14年8月10日(夕刊)「奔放さ・社会性に魅力 米国の現代陶芸展」(中野稔)  
京都新聞社 平成14年8月10日(朝刊)「自由奔放な表現と探究の軌跡 アメリカ現代陶芸の系譜1950-1990」(太田垣實)  
産経新聞社 平成14年8月21日(朝刊)6面「自由の国の奔放な表現力」(丸橋茂幸)  
日本経済新聞社 平成14年8月20日(朝刊)「アメリカ現代陶芸の系譜展 ケース飛び出した焼き物」(弓場紀知 出光美術館・大阪館長代理)  
読売新聞社 平成14年8月27日(夕刊)「イメージ変の面白さ アメリカ現代陶芸の系譜展」
13. アンケート調査  
調査期間 平成14年7月30日(火)～9月1日(日)(30日間)  
調査方法 館内2箇所にアンケート箱を設置  
アンケート回収数 140件

アンケート結果 ・良い52.1%(73件)・普通27.1%(38件)・悪い5.7%(8件)  
・無記入15%(21件)

#### 14. 特記事項

日本は陶芸に長い歴史を持ち、アメリカやヨーロッパにも様々な影響を与えており、また影響もされている。それらの影響関係を実際の作品を通して考察することは、今後の陶芸と我が国の文化芸術の発展に大きな役割を果たすことになったと思う。

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

この展覧会は当館が中心となり調査研究を重ねた上で構成したものであり、また、愛知県陶磁資料館を始め公立美術館4館を巡回したことは大きな成果であるといえる。展覧会カタログも現在までの最新の作家情報や歴史的事実を年表に反映させたことは、研究資料としても成果が上がったと思う。さらに、数人のアメリカ現代陶芸の作家にインタビューできたことも研究にとって重要なものであった。この巡回により国民の多くの方々に当展の意図を知ってもらい新たな芸術創造や文化の向上に役だったと思われる。

##### 【見直し又は改善を要する点】

展覧会の内容の割には入場者が増えず、予想以上に厳しい結果となった。この点については、いくつかの要因が考えられる。一つには会期が、学校の夏休みとほぼ重なっていたこと、また夏の猛暑により客足が滞ったことなどが考えられるが、宣伝広報のやり方にももっと工夫が必要であったと反省している。京都府ならびに京都市教育委員会にも夏休み前をお願いに行ったが、教育委員会から学校への積極的な働きかけにまでは至らず、今後当館が直接学校に出向くなどして当館と各学校の関係を進めることも必要であるように感じた。京都近郊の大学へは直接お願いにあがり、とくに工芸学科を中心に説明をした。これらの学校からはかなりの多くの鑑賞者が来館した。今後は展覧会の内容にあわせた、広報普及活動が必要であると思う。

# 「スーラと新印象派 - 光と点描の画家たち」展（共催展）

## 方 針

ジョルジュ・スーラと彼が唱導する新印象主義はその重要性にもかかわらず、作品が稀少かつ借用困難なためこれまで十分に紹介されることがなかった。このテーマの展覧会としては日本で17年ぶりとなる本展では世界各地から借用した105点の作品によって、印象派と比しても知られることの少ない新印象派の全貌を紹介した。

## 実 績

1. 開会期間	平成14年9月10日(火)～10月20日(日)(36日間)
2. 会 場	京都国立近代美術館3階企画展示場
3. 主 催	京都国立近代美術館、NHK京都放送局、NHKきんきメディアプラン、読売新聞大阪本社
後 援	フランス大使館、ベルギー大使館、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会
協 賛	株式会社損害保険ジャパン
協 力	日本航空、ヤマト運輸、
企画協力	アプトインターナショナル
4. 出品点数	105件
5. 入館者数	51,488人(目標入場者数 6万6千人)
	同時期に京阪神で内容や共催新聞社を同じくする展覧会がいくつか開かれ、観客が分散し、宣伝も必ずしも十分になされなかったと考えられる。
6. 入場料金	一般1,300円(950円)/大・高生900円(510円)/中・小生以下無料 ( )内は団体
7. 入場料収入	10,498,160円(目標入場料収入17,375,000円)
8. 担当した研究員数	1人
9. 展覧会の内容	スーラを中心に新印象派の作品を紹介し、その美術史的意義をさぐる
10. 講演会等	3回 参加人数 255人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
11. 広報	ポスター、チラシの作成・配布、NHK及び読売新聞社を中心とする広報、交通広告(京阪電鉄、大阪市地下鉄)、看板広告、新聞広告、放送、パブリシティ情報掲載、
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等	日本経済新聞社 平成14年9月21日(夕刊)「印象派後開いた画家2人 神戸・ゴッホ展 京都・スーラ展」(中野稔) 産経新聞社 平成14年10月2日(朝刊)6面 「光と色彩のハーモニー スーラと新印象派展」(早瀬寛美) 京都新聞社 平成14年10月12日(朝刊)「点描の革新性と展開 スーラと新印象派展」(深萱真穂) 毎日新聞社 平成14年10月15日(夕刊)「Art Scene 新印象派と科学」(小林昌寛 京都造形芸大助教授)
13. アンケート調査	調査期間 平成14年9月10日(火)～10月20日(日)(36日間) 調査方法 館内2箇所にアンケート箱を設置 アンケート回収数 524件 アンケート結果 ・良い66.2%(347件)・普通25.6%(134件)・悪い4.0%(21件) ・無記入4.2%(22件)
14. 特記事項	カタログは最新の欧米の研究成果を反映した充実した内容であり、今後のスーラ及び新印象主義研究に資するところがきわめて大きい。

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

日本ではほとんど公開されることがない作品が多数展示されたこともあり、内容はおおむね好評に受け入れられた。

### 【見直し又は改善を要する点】

展覧会名に銘打ったスーラの作品は借用の困難から11点にとどまり、充実を求める声があった。東京展と比しても遜色のない動員であったが、同じ時期に開かれた兵庫県立美術館のゴッホ展、京都市美術館のメトロポリタン美術館展などの類似した傾向の展覧会と観客を奪い合うかたちになり、集客の点では残念ながら当初の予想に及ばなかった。

# 「クッションから都市計画まで - ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作連盟 ：ドイツ近代デザインの諸相 1900-1927」展（特別展）

## 方 針

本展覧会は、今まで我が国でほとんど紹介されることのなかった、第一次世界大戦前後、つまり世紀末からバウハウス誕生にいたるドイツにおける近代デザインの動向を、1907年に「芸術と産業の融合」を旗印に掲げて結成されたドイツ工作連盟と、その理論的指導者として活躍したヘルマン・ムテジウスの活動を中心に紹介することを目的としていた。

## 実 績

1. 開会期間 平成14年11月2日(土)～12月23日(月) (45日間)

2. 会 場 京都国立近代美術館3階企画展示場

3. 主 催 京都国立近代美術館、東京国立近代美術館

共 催 財団法人堂本印象記念近代美術振興財団

協 賛 国際交流基金、(財)サントリー文化財団、財団法人ポーラ美術振興財団、(財)UFJ信託文化財団

協 力 工作連盟資料館、関西ドイツ文化センター、ルフトハンザカーゴA G、京阪電鉄

後 援 ドイツ連邦共和国総領事館

4. 出品点数 209件

5. 入館者数 12,842人(目標入場者数 1万人)

日本では、全く知られていなかったテーマにも関わらず、入場者数は目標を上回った。展覧会に併せて雑誌などへの広報を行ったことや、通常の講演会に加え海外からのパネリストを迎えてのシンポジウムの開催などで、一般・専門家両方の関心を呼ぶことができたことが一因であると考えられる。また、展示作品に関わる当時の写真をパネルや壁張りで多用し、専門的知識がなくても楽しめる展示空間を工夫したことが、口コミでの集客に繋がったと考えられる。

6. 入場料金 一般830円(560円)/大・高生450円(250円)/中・小生以下無料 ( )内は団体

7. 入場料収入 6,426,890円(目標入場料収入5,880,000円)

8. 担当した研究員数 1人

9. 展覧会の内容 20世紀前半のドイツにおいてデザイン改革運動に決定的役割を果たしたドイツ工作連盟の活動とその理論的中心をになったムテジウスの思考を紹介

10. 講演会等 3回 参加人数 146人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)

11. 広報 ポスター、チラシの作成・配布、交通広告(京阪、阪急、京都市バス・地下鉄)、看板広告、新聞広告、放送、パブリシティー情報掲載、

12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

日本経済新聞社 平成14年11月14日(夕刊)「クッションから都市計画まで展 歴史に翻弄された機能美」(加藤義夫 美術評論家)

朝日新聞社 平成14年12月14日(夕刊)「輝くデザイン再評価待つ ドイツ工作連盟展」(森本俊司)

毎日新聞社 平成14年12月17日(夕刊)「Art Scene ドイツ工作連盟」(小林昌寛 京都造形芸大助教授)

13. アンケート調査

調査期間 平成14年11月2日(土)～12月23日(月) (45日間)

調査方法 館内2箇所にアンケート箱を設置

アンケート回収数 163件

アンケート結果 ・良い62.0%(101件)・普通29.4%(48件)・悪い3.7%(6件)  
・無記入4.9%(8件)

#### 14. 特記事項

バウハウス関係の出品作品を除き、ムテジウスならびにドイツ工作連盟に関するほとんどの出品作品は、本展において、初めて日本で紹介された。また本テーマの展覧会は、日本のみならず海外においても初めての試みであったため、海外の研究者や関係者から高い評価を得られたことが、特記事項として挙げられる。また、カタログは本テーマを包括的に紹介する唯一の書籍であり、今後近代デザイン史を研究する上で、なくてはならない資料となっている。

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

本展覧会は、伝統的な美術工芸が産業の発展に伴い、より一般性を帯びた工業生産の対象へと変貌していく過程を採り上げた。その中で、特筆すべきことは、この時代の最も重要な団体である「ドイツ工作連盟」の活発な展覧会・出版活動を紹介することで、バウハウスの威光の影に隠れて見落とされがちなドイツ近代デザインの成立段階に照準があてられたことである。また、そのイデオログであるヘルマン・ムテジウスの思想や活動が、彼とイギリス・日本との関係を踏まえた上で掘り下げられ、日本で初めて本格的に紹介されたことは評価される。また本テーマに関する和書はほとんどなく、論文と関連資料を豊富に含んだ展覧会図録は、唯一の包括的資料である点で非常に重要である。展覧会に併せて開催された2回の講演会およびシンポジウムにも、関心の高い聴衆が集まり、非常に挑発的・刺激的な議論が交わされたことは収穫であった。

##### 【見直し又は改善を要する点】

上記のように本展覧会は高い評価を得たが、展覧会実施のために要した経費は通常の特別展経費をかなり上まわった。収支の額のひらきの大きさはやむを得ないとして、年間展覧会全体の収支のバランスを考慮に入れるべきである、

# 「ウィーン美術史美術館名品展～ルネサンスからバロックへ～」(共催展)

## 方 針

近代美術館としての性格を有する当館は、これまでも折を見て、古典美術の紹介にも力を注いできた。今回は、これまで門外不出であったデューラーの板絵をはじめとして、アルチンボルドなどわが国での初公開作品を多数含むウィーン美術史美術館の名品を紹介し、より広範囲の美術愛好家の期待に応えられるよう、その機会を提供したものである。

## 実 績

1. 開会期間 平成15年1月11日(土)～3月23日(日)(62日間)
2. 会 場 京都国立近代美術館3階企画展示場
3. 主 催 京都国立近代美術館、NHK京都放送局、NHKきんきメディアプラン  
後 援 外務省、オーストリア大使館、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会  
協 力 全日本空輸、日本貨物航空、  
制作協力 NHKプロモーション
4. 出品点数 81件
5. 入館者数 102,376人(目標入場者数 11万9千人)  
1月から2月という通常は最も入場者の少ない時期に開催したことが大きな理由であったと思われ、同時に天候が不順(特に例年以上に気温が低かったこと)であったことも影響したのであろう。
6. 入場料金 一般1,300円(1,000円)/大・高生900円(600円)/中・小生以下無料  
( )内団体
7. 入場料収入 28,925,380円(目標入場料収入31,275,000円)
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容 ウィーン美術史美術館所蔵作品の中からルネサンスからバロックにかけての名品を紹介
10. 講演会等 5回 参加人数 429人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
11. 広報 ポスター、チラシの作成・配布、NHKを中心とする広報、交通広告(京阪、近鉄、大阪市地下鉄)、看板広告、放送、パブリシティー情報掲載
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等  
京都新聞社 平成15年1月18日(朝刊)王室の典雅と好奇 ウィーン美術史美術館名品展(深萱真穂)  
日本経済新聞社 平成15年1月25日(夕刊)「ハプスブルクの栄光映す ウィーン美術史美術館名品展」(中野稔)  
産経新聞社 平成15年2月12日(朝刊)「“アルチザン”としてのベラスケス ウィーン美術史美術館名品展」(丸橋茂幸)  
読売新聞社 平成15年2月24日(夕刊)「王女の影に潜む悲劇 ウィーン美術史美術館名品展」(木村未来)  
毎日新聞社 平成15年2月25日(夕刊)「Art Scene 美術史の美術館」(小林昌寛 京都造形芸大助教授)
13. アンケート調査  
調査期間 平成15年1月11日(土)～3月23日(日)(62日間)  
調査方法 館内2箇所にアンケート箱を設置  
アンケート回収数 758件  
アンケート結果 ・良い72.6%(550件)・普通20.4%(155件)・悪い2.4%(18件)  
・無記入4.6%(35件)
14. 特記事項  
近代美術館としての性格を有する当館ではあるが、関西では古典美術を紹介する場も少なく、その意味でも古典

と近代を結びつける視点を設定する上でも、貴重な場となった。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

本展覧会も、先の「カンディンスキー展」と同じく、東京会場（東京芸術大学大学美術館）での開催の後を受けて当館で開かれたものであるが、当館では全作品に200字程度の簡潔な解説を付し、鑑賞の一助とするとともに、当館独自に「ウィーン美術史美術館」についての解説パネルも作成した。解説の記載内容については、同じく古典美術の紹介であった昨年開催の「シエナ美術展」の反省点から、平明で文字も大きくした。また「カンディンスキー展」と同様、親子を対象に開催した2度の鑑賞講座をはじめ、多数の機会にのぼった団体鑑賞解説などをおして、わが国の児童・生徒に対しても、西洋古典美術を身近に受け止めてもらえるよう努力した。

#### 【見直し又は改善を要する点】

1月・2月という時期にとりわけ大量動員が期待される展覧会を開催しても、明らかに限界が生じるという点が痛感された。展示内容については、ウィーン美術史美術館も日本で初めて20点の板絵作品の展示を認めるなど申し分なく、さらにNHKを中心とした広報活動も活発に行ったが、それでも目標人数に届かなかった原因についてさらに検討・分析を行う必要がある。

## 「水辺の風景」展（国立美術館・博物館巡回展）

### 方 針

昨年に続き、京都国立博物館との共同で会場を広島県立歴史博物館に移して開催した巡回展で、昨年同様明確なテーマを設定した。テーマを「水辺の風景」としたことは、会場の歴史博物館が豊かな自然に恵まれた瀬戸内海に面し、芦田川の川底に埋もれた遺跡として著名な草戸千軒を再現展示するなど、水とかがわりの深い側面が押し出されている同博物館の強い要請でもあり、本テーマに即して当館からは16点の日本画と洋画を出品した。

### 実 績

1. 開会期間	平成14年9月6日～平成14年10月6日（29日間）
2. 会 場	広島県立歴史博物館
3. 主 催	広島県立歴史博物館、京都国立近代美術館、京都国立博物館
共 催	中国新聞備後本社
後 援	福山市、福山市教育委員会、福山商工会議所、尾道商工会議所、三原商工会議所、府中商工会議所、笠岡商工会議所、井原商工会議所、福山青年会議所、広島経済同友会福山支部、広島県都市教育長会、広島県町村教育長会、広島県高等学校長協会、広島県公立中学校長会、広島県連合小学校長会、広島県高等学校PTA連合会、広島県PTA連合会、福山地域文化振興協議会、福山文化連盟、NHK福山支局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、広島エフエム放送、エフエムふくやま
4. 出品点数	41件（うち国宝 1件、重要文化財 4件）
5. 入館者数	4,444人 国立美術館全体としては2回12,753人（平成12年度実績：2回 11,959人）
6. 入場料金	一般700円(560円)/高大生520円(410円)/小中生350円(280円) ( )内は団体
7. 担当した研究員数	2人
8. 展覧会の内容	京都国立博物館・京都国立近代美術館の所蔵品の中から水にちなむ作品を一堂に展示
9. 講演会等	2回 188人（詳細は「教育普及」講演会等欄へ） 9月14日 水を表現するということ - 近代美術出品作品にそくして - 京都国立近代美術館主任研究官 山野英嗣 9月21日 京の橋 - 中世・鴨川の風景 - 京都国立博物館学芸課長 下坂 守
10. 広 報	広島県立歴史博物館を中心とする広報、交通広告、新聞広告、看板広告、放送、パブリシティ ー情報掲載、等
11. アンケート調査	
調査期間	平成14年9月6日～平成14年10月6日（29日間）
調査方法	館内にアンケート箱を設置
アンケート回収数	204件
アンケート結果	・良い69.6%(142件)・普通17.6%(36件)・悪い4.9%(10件) ・無記入7.8%(16件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

開催会場のスペース上の制約から、当館からは16点の出品にとどまったが、それでも地元ゆかりの小野竹喬や須田国太郎らの作品に関心が集まり、近代の美術表現における主題という点からも意外にも「水」をテーマにした作品が多いことを印象づけられた意味でも貴重であった。また、博物館との共同事業という性格からも、時代の異なる典型的な資料と近代美術作品とを、同じ会場に集めて展示する手法は逆に新鮮であったと考えられる。

#### 【見直し又は改善を要する点】

一般にはまだ浸透しがたい展覧会と理解されていたようで、思うほど観覧者数が伸びず、抽象的なタイトルも含め、

再考を要するようにも思われた。

## (2) 貸与・特別観覧の状況

(京都国立近代美術館)

## 中期計画

(2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。

## 実 績

### 1. 貸与・特別観覧の件数

貸 与 76件(427点)

特別観覧 79件(357点)

### 2. 特記事項

好意的評価を受け、さらに積極的に貸与及び特別観覧の要望に応えた。

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

収蔵品については、外部からの出品依頼が多く、その貸出手続きや作業はかなりの時間と労力を要するが、常設展示室が決して広くなく、当館において十分に所蔵品を紹介できないことも考慮し、作品の保存に支障がない範囲でできる限り出品に応じ、収蔵品を有効活用するとともに公私立美術館の活動を積極的に支援して各館から好意的に受けとめられた。特に、岐阜県現代陶芸美術館開館記念展「現代陶芸の100年」第2部「世界の陶芸」に30点を、大分県立芸術会館の「首藤コレクション福田平八郎展」には日ソ連政府から寄贈され、当館が所蔵する平八郎作品42点すべてを貸与したことは特記される。また、出版社から『京都国立近代美術館所蔵「長谷川潔作品集」』が刊行され、これに伴い特別観覧件数が増加している。

### 【見直し又は改善を要する点】

作品の貸与、特別観覧を積極的に行うこと自体は重要であると考え、これにかかる仕事量はそれに伴いますます増加する方向にある。このことを考えると30年以上も以前に設定された貸与料金、特別観覧料金について、独立行政法人化された現在もなおこの料金でいいのかという疑問が生じる。

### \*添付資料

貸与件数等の推移(定量的数値推移一覧表 p.8)

特別観覧件数の推移(定量的数値推移一覧表 p.9)

### 3. 調査研究

#### 中期計画

(1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。

- <1> 収蔵品に関する調査研究
- <2> 美術作品に関する調査研究
- <3> 収集・保管・展示に関する調査研究
- <4> 美術史、美術動向、作者に関する調査研究
- <5> 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等

(1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。

(2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

#### 実績

##### 1. 調査研究

###### (1) 収蔵品の調査研究

長谷川潔作品についての再調査及び研究  
日本画作品についての再調査及び研究  
秦テルヲ資料についての調査研究

###### (2) 展覧会のための調査研究

近代京都の工芸に関する調査研究  
アメリカの現代陶芸に関する調査研究（愛知県陶磁資料館等との共同研究）  
ドイツ工作連盟に関する調査研究  
海外所在の近代日本美術品についての所蔵美術館との調査研究  
神坂雪佳の総合的研究（アメリカ・バーミングハム美術館との共同研究）  
横尾忠則の総合的研究  
秦テルヲの総合的研究（笠岡市立竹喬美術館との共同研究）  
中央アジアの染織を中心とする工芸の調査研究  
他の美術館等における調査研究に対する協力

###### (3) 科学研究費補助金による調査研究

琳派の系譜 その継承と交流 - 神坂雪佳を中心（日本学術振興会）

###### (4) その他助成金

近代日本美術における記録写真の調査と収集（日本科学協会）  
国際シンポジウム（ムテジウスとドイツ工作連盟 - その歴史的意義について）（ポーラ美術振興財団）

2. 調査研究費 予算額 8,431,000円 決算額 27,956,989円

##### 3. 特記事項

外部資金の獲得に積極的に努め、調査研究を従来よりも拡充した。

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

中期計画に基づいて調査研究をすすめ、本年度のみの調査研究と本年を最終年度とする調査研究については、展覧会カタログにその成果を発表し、次年度以降を最終年度とする調査研究はさらに継続していく予定である。また、外部資金による調査研究、外部研究者との交流についても積極的に取り組み、日本学術振興会、日本科学協会、ポーラ美術振興財団などから研究助成金を得て調査研究にあたった。その成果についても今後積極的に発表していく予定で

ある。

**【見直し又は改善を要する点】**

調査研究及び発表については、外部資金を積極的に獲得したが、将来はこれ以外にもより多方面な機会と場をとらえて調査研究と発表活動をする必要がある。

**【計画を達成するために障害となっている点】**

調査研究の発表の場を広げる場合、他の機関が開催する展覧会や出版社等に寄稿することが考えられるが、この場合調査研究のための経費として原稿料を受け取ることについて、国家公務員倫理規程が研究意欲を殺ぐことになっているように思われる。

## 4 . 教育普及

- (1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。
- (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。
- (1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。
- (2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。  
また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。
- (3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。  
それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。  
また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。
- (4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。
- (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。
- (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。
- (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。
- (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。  
また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。
- (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。
- (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。
- (6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。
- (6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

## 方 針

利用者が主体的かつ創造的に美術館を活用できる環境整備、および利用者の自由な発想を促すための教育セミナー、ワークショップ、広報活動を充実させる。

## 実 績（総括表）

- (1) - 1 資料の収集及び公開  
収集件数 751件
- (1) - 2 広報活動の状況  
刊行物による広報活動 3種  
ホームページによる広報活動  
マスメディアの利用による広報活動
- (1) - 3 デジタル化の状況  
今年度にデジタル化した美術作品の件数 500件（目標500件）
- (2) - 1 児童生徒を対象とした事業

ワークショップ 2回 188人

講座・鑑賞教室 5回 368人

(2) - 2 講演会等の事業

講演会 18回 1,394人

パフォーマンス 7回 (オープンスペースで開催のため鑑賞者数は不明)

(3) - 1 研修の取組

学芸担当職員研修の実施

美術館等運営研究協議会の開催

(3) - 2 大学等との連携

(3) - 3 ボランティアの活用状況

(登録の人数を含め記載する。)

平成14年度は日韓共催ワールドカップサッカー大会開催に合わせて案内のための通訳ボランティアを導入 延べ13名

(又は今後の取り組み)

平成15年度は、これまで導入に関して検討を重ねてきたことを踏まえ、ボランティア導入の試行を行う。

(4) 渉外活動 企業等との連携

(5) 友の会活動

会員数 12人(平成15年度友の会創設予定。ただし、友の会会員募集は平成15年3月18日より実施)

(6) 教育普及経費 予算額 57,893,000円 決算額 44,635,155円

(7) 特記事項

インターネットの積極的活用及びより一層の資料活用の必要性の指摘を受け、データベース化した所蔵品の著作権問題の解決に努力し、次年度から一部一般公開の体制を整えることができた。

博物館実習生の受け入れ状況の見直しについての指摘に基づき、本年度の実施状況を反省・検討した結果、次年度からは当館に関連する近・現代美術を専攻する学生を対象とし受講者数を縮小して実施することとした。

外国美術館の学芸員との交換研修を検討する必要性についての指摘を受け、文化庁の協力を得て、試行的に、メルボルン大学附属美術館長を招聘し、関係者との研究ワークショップを開催し、一定の成果を得た。

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

前年から継続して、「当館の設備・人員等の物理的限界に拘束されない活動が可能か」を念頭に試行と実践を行った。「美術館は地域の文化装置である」という認識に立ち、美術館外部からの創造的な美術館利用を促す努力として、海外の専門家(メルボルン大学附属美術館長)と美術家(沖啓介、メディア・アーティスト)を招き、館外の美術教育関係者と博物館実習の大学生とともに、教育普及の理論と実践の研究ワークショップを開催した。参加者の一人が所属する大学から、美術館で開催中の展覧会を主題に、大学院生による中学生を対象としたワークショップを美術館で開催する可能性についての打診をうけるなど、徐々にではあるが、当館の教育普及に対する姿勢が関係者の間に浸透しつつあると評価でき、次年度に具体的な活動の実現の見込みである。

### 【見直し又は改善を要する点】

ボランティア制度の導入についても試行を行ったが、「生涯教育の延長としての文化ボランティアの受け入れ」という一般的要請(開放的導入)と、「真に美術館が必要とする技能・経験を備えたボランティア人材」の導入(排他的導入)との対立の問題に美術館がどのような立場で取り組むか、いまだ検討中であり、この実施は慎重な検討が必要であると考え。

所蔵資料のデジタル化は若干の進捗をみたが、その公開については著作権上の問題がネックとなり実現していな

い。しかし次年度では、著作権問題を解決したものだけでも公開に踏み切る予定である。  
当館の活動へのより広範な理解を集めるための一つとして、平成15年4月1日創設予定の「友の会」の準備、募集を開始した。友の会の活動状況を注視しつつ、同会の主体的活動を促し、美術館の広報普及についても協力関係を構築していく方針である。

【計画を達成するために障害となっている点】

学芸スタッフとしての視点からこの事業に専属的に関与し、創造的活動を実施し経験を蓄積できる人材の養成・費用がぜひとも必要であり、この能力を備えた専従スタッフの不在が最大の障害である。

\*添付資料 教育普及一覧（定量的数値推移一覧表 p.11）

## （１） - １ 資料の収集及び公開（閲覧）の状況

### 中期計画

(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。

(京都国立近代美術館)

## 実 績

### 1. 収集

件数 751件(購入102件 寄贈649件)

### 2. 公開

公開場所 4階、1階のフリースペ - スに設置

公開日数 277日間

公開資料数 51件

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

国内外の美術館、大学、関係研究機関との資料交換を継続し、かなりの点数の寄贈図書があった。また、基本的な図書、今後の調査研究、また、展覧会企画に必要な図書類を積極的に購入した。

当館には構造的に美術図書閲覧室を設ける空間的余裕はないが、1階及び4階のフリースペースにコーナーを設けて一部を入館者に公開するよう努めた。そのため開館日にはいつでも誰でも閲覧できる体制となり入館者からは好評であった。

### 【計画を達成するために障害となっている点】

フリースペースの一部に閲覧コーナーを設けて当館の意欲を示したが、建物に空間的余裕がないことと、これに専従する人員がないことが、閲覧室新設についての根本的な障害となっている。

## (1) - 2 広報活動の状況

### 中期計画

(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開す

るとともに、国立美術館への理解の促進を図る。

また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。

## 実 績

### 1. 広報誌名

#### (1) 年報

発行年月日 平成15年3月発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)

料金 無償

配布先 全国美術館・博物館、大学・学校等

#### (2) 概要

発行年月日 平成15年3月発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)

料金 無償

配布先 全国美術館・博物館、大学・学校等

#### (3) 展覧会に伴う図録の発行

発行年月日 6回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)

売価 日本画への招待展 2,520円 カンディンスキー展 2,200円

アメリカ現代陶芸の系譜展 2,000円 スーラと新印象派展 3,800円

ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作連盟展 2,000円 ウィーン展 2,300円

配布先 全国美術館・博物館、大学・学校等(無償)

特記事項 日本画への招待展については、書籍として書店でも販売。

#### (4) 美術館ニュース「見る」

発行年月日 奇数月発行(発行済み回数5回、発行部数5冊)(年度計画記載発行回数 6回)

料金 無償

配布先 会場内配布、全国美術館・博物館、大学・学校等

#### (5) カレンダー(展覧会予定表)

発行年月日 平成15年3月発行(発行回数3回)(年度計画記載発行回数3回)

料金 無償

配布先 会場内配布、全国美術館・博物館、大学・学校等

#### (6) パンフレット(和文)

発行年月日 平成14年12月発行(発行回数1回)

料金 無償

配布先 会場内配布、近隣施設、ホテル、観光案内所等

#### (7) パンフレット外国語版7言語(英、独、仏、伊、西、中、韓)

発行年月日 平成14年5月発行(発行回数1回)

料金 無償

配布先 会場内配布、近隣施設、ホテル、観光案内所等

## 自己点検評価

### 1. 展覧会の記事掲載

#### 【良かった点、特色ある取組み】

通常、新聞社や美術関係誌及び一般情報誌からの依頼により、プレスリリース、出展作品の写真などの資料を送付

し、展覧会の記事掲載をしている。

**【見直し又は改善を要する点】**

記事掲載の依頼先からは概ね展覧会会期の2, 3月前に料金や講演会などの詳細を知りたいという要望が多いので、早い時期に回答できるように対応したい。

**2. ホームページの掲載**

**【良かった点、特色ある取組み】**

当館のホームページへの掲載以外に、私設の美術館関係ホームページへの掲載を行っているところへ当館の展覧会紹介の依頼をしている。

**【見直し又は改善を要する点】**

現在は基本的に文字情報を主として掲載依頼しているが、先方から作品の画像の掲載を求められることが多いので、展覧会を問わず可能な限り対応したい。

**3. 館パンフレット、展覧会ポスター、などの掲出**

**【良かった点、特色ある取組み】**

館パンフレットや年間展覧会案内、チラシを作成して館内で掲出するほか、他の美術館、観光案内所などに掲出している。また、生涯学習センターなど来館する客層に合わせて展覧会資料を重点的に掲出するようにしている。

**【見直し又は改善を要する点】**

年間カレンダーについては、早くからの送付の要望があるため、作成時期の検討をしたい。

## (1) - 3 デジタル化の状況

**中期計画**

(1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。

- (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。
- (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。  
また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。

## 実績

1. 所蔵作品のデジタル化  
今年度にデジタル化した美術作品の件数 500件(目標500件)  
平成14年度未収蔵作品数 7,236件  
平成14年度未デジタル化作品数 3,350件  
今後のデジタル化の対応 毎年500件をデジタル化予定
2. ホームページのアクセス件数 204,000件  
ホームページのアクセス件数は、順調に伸び、20万件を超えることとなった。このアクセス件数の増大は、昨今のデジタル化への国民の高い関心と整備されたインフラ、ネットユーザーの増加が大きな要因と言える。情報をインターネットで検索し、それを用いる時代が到来したことを物語る一つの例である。
3. デジタル化した情報の公開  
HP等による公開件数 60件  
画像の公開については、所蔵作品のカラーポジフィルムが順調にデジタル化しているので、それを基に、まずは館内のネットワークで段階的に増やしていくつもりである。しかし、画像公開には著作権という大きな制約もありこの著作権の許可に基づき館外への公開も合わせて行っていくつもりである。もちろん著作権の切れた作品は、順次公開していくものである。

## 自己点検評価

- 【良かった点、特色ある取組み】  
アクセス件数の増大につれてネチケット(ネットワークのエチケット)を守らないハッカーやクラッカーが増え、当館においても1時間に2万パケットという攻撃を何度も受けた。この攻撃を受けても当館のネットワークシステムやサーバーを守り抜くことは大変な苦勞であった。また、日々、この種のアタックやウィルスなど館内、館外のネットワーク管理には多大な労力を使っている。
- 【見直し又は改善を要する点】  
当館では、このようなネットワークおよびコンピュータ管理には常勤、非常勤にしても人員はおらず、研究官1名が担当している。現在も相当な合理的、効率的な管理を行っているが、システムの更新や管理など人員と予算を考えると自ずと限界が訪れることは明白である。これらの状況の解決に向けての検討をさらなる合理化の上今後押し進めなければならないと思う。

## (2) - 1 児童生徒を対象とした事業

- 中期計画**  
(2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。  
また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。

## 実績

1. 事業名	子どものためのワークショップ
開催期間	
ア.	平成14年9月14日（1日間）（開催場所：京都国立近代美術館）
イ.	平成14年11月12日（1日間）（開催場所：京都国立近代美術館）
参加者数	188人
担当した研究員数	2人
事業内容	学校現場の教師に美術館の創造的利用を促すとともに、教師と美術館職員が対話しながら、教師自身が発想し運営するワークショップ
特記事項	京都府内の美術教育に携わる教員を対象にした全京都美術教育連合研修会を招致し、職員が講演及び研究討議に参加することにより、学校現場の教師に美術館の創造的利用を喚起することができた。これにより、今後も美術館の多様な利用への要望が高まるよう積極的に働きかけていく。
2. 事業名	「生き方探究・チャレンジ体験」事業
開催期間	
ア.	京都市立西賀茂中学校 平成14年7月2日～平成14年7月4日（3日間）
イ.	京都市立近衛中学校・京都市立洛水中学校 平成14年11月6日～平成14年11月8日（3日間）
ウ.	京都市立西の京中学校 平成15年1月28日～平成15年1月30日（3日間）
エ.	京都市立山科中学校 平成15年2月12日～平成15年2月14日（3日間）
参加人数	13人
参加した研究員	2人
事業内容	中学生を受け入れ美術館業務を体験させることにより、美術への関心を高めるとともに、社会の一員としての自覚を育成する。
特記事項	平成13年度から実施しているが、受入件数も増え、定着しつつある。

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

海外の専門家と美術家を招き美術教育関係者と博物館実習生を対象とした研究ワークショップは、充実した討議内容であり、参加者から次年度の具体的な活動プランが提示されるなど、その成果を評価することができる。今後も当館の美術館教育への取り組みを館外関係者に周知する努力を継続するつもりである。小学4年生が先生を囲みクラス単位で、常設展会場で所蔵品を起点に様々な事柄について話し合うワークショップも、従来にない充実したものであったとの報告を受けている（教師側提案の企画）。次年度も現場の教師たちの自主的で創造的な美術館利用を促していきたい。中学生が美術館の実務を3日間体験する「生き方探究・チャレンジ体験」への協力も関係者の間に高い評価と共に定着しつつある。徒に話題性を求めず、実質的で継続的な活動を積み重ねて行くつもりである。

### 【見直し及び改善を要する点】

この分野への当館の取り組みについて、より一層の広報、関係者への周知が検討課題であると考えている。

## (2) - 2 講演会等の事業

### 中期計画

(3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。

それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。

また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答さ

れるよう内容について検討し、さらに充実を図る。

## 実績

1. 講演会 18回(年度計画記載回数: 各展覧会1~2回) 別添「4-(3)講演会一覧」  
開催期間 18(日間)  
開催場所 京都国立近代美術館1階講堂  
参加者数 1,394人(平成12年度実績990人)  
担当した研究員数 8人  
事業内容 一般入館者を対象に展覧会に即した内容をわかりやすく講演する。  
アンケート結果(回答数675件) ・良い66.8%(451件) ・普通24.1%(163件)  
・悪い2.7%(18件) ・無記入6.3%(43件)
2. シンポジウム(年度計画記載回数: 1回)  
開催期間 平成14年11月2日(1日間)  
開催場所 立命館大学以学館2号ホール  
参加者数 72人(平成12年度実績71人)  
担当した研究員数 1人  
事業内容 第一次世界大戦前後のドイツにおける近代デザインの動向を、ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作連盟を中心に、その歴史的な位置づけと現代的意義について4人のパネリストを招き討議した。
3. 「デザイン改革1095」ワークショップ  
開催期間 平成14年10月28日(1日間)  
開催場所 京都国立近代美術館  
参加者数 211人  
担当した研究員数 1人  
事業内容 美術館を利用した美容業界の新たな教育への取り組みとして実施。  
特記事項 社会人を対象とした初の試みであり、今後とも要望があれば実施したい。

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

各展覧会毎に、1,2回程度、一般入場者を対象とした内容の講演会や音楽会を開催する一方、専門的知識を求められる講演会やシンポジウムを大学関係者と協力して1回開催した。また、今回は美容業界の要望に応じて「デザイン改革1095」と銘打ったワークショップを、新しい試みとして開催し、一般市民や関係者等から好評であった。

### 【見直し又は改善を要する点】

ギャラリートークについては、過去の経験から、あるいは他館の例から考えて、他の観客にとっては鑑賞の妨げとなるなどのことを考慮してスライドトークに切り替えるべきであると考えている。

## (2) - 3 友の会活動

### 実績

1. 会員数 12人(平成15年3月31日現在)
2. 活動内容
3. 特記事項 平成15年4月1日から京都国立近代美術館友の会を発足。平成15年3月より募集を開始する。

## 自己点検評価

平成15年度から実施する。

## (3) - 1 研修の取組

### 中期計画

- (4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。
- (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。
- (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。
- (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。

### 実績

#### 1. 学芸担当職員（キュレーター）研修

##### (1) 京都国立近代美術館学芸員実務研修生の受入れ

研修期間 平成14年10月1日～平成15年3月31日（98日間）

開催場所 京都国立近代美術館

参加者数 1人（平成12年度実績 0人）

担当した研究員数 7人

事業内容 美術館その他これに類する施設の学芸担当職員の専門的知識及び技術の向上を図り、これらの施設等の機能の高度化と相互の連携に資することを目的とする。

##### 特記事項

法人本部で受け入れる学芸担当職員（キュレーター）研修とは別に、京都国立近代美術館独自の制度として本年度から設けたものである。

#### 2. 文化庁との共催事業

##### (1) 美術館等運営研究協議会の開催

研修期間 平成15年3月12日～平成15年3月13日（2日間）

開催場所 京都市立国際交流会館

参加者数 95人

担当した研究員数 1人

事業内容 美術館・歴史博物館の運営の充実に資するため、公私立の美術館・歴史博物館の管理・運営・利用に関係する者が、相互に知識や経験の交流を図り、研究協議を行う。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

本年度から、法人本部とは別に当館独自の学芸担当職員研修制度を設け半年間の研修者を受け入れ、新任学芸員の実務指導にあたり、地方美術館職員の資質向上に貢献した。また、文化庁と共催で美術館等運営研究協議会を開催し、関係機関の研究協議に協力し成果があった。なお、本協議会は来年度も引き続き当館が担当館として協力する予定である。

#### 【計画を達成するために障害となっている点】

学芸担当職員研修制度を設けたが、1～2ヶ月では十分な研修が行えず、一方十分な研究を行うために長期間研修員が勤務館を離れることは、当該館の仕事に支障を来す恐れがある。内部研修を受けることができない小規模館では尚更である。この点がこの制度にとっての課題及び障害となっている。

## (3) - 2 大学等との連携

## 実績

### 1. 博物館実習生

- 受入期間 1期：平成14年8月26日～平成14年8月31日（6日間）  
2期：平成14年9月2日～平成14年9月7日（6日間）  
二期間：平成14年8月26日～平成14年9月7日（12日間）
- 開催場所 京都国立近代美術館
- 参加者数 23大学41名
- 担当した研究員数 7人
- 事業内容 美術館業務全般にわたる実習
- 特記事項 文化庁の平成14年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業により招へいした海外の専門家にも指導を受けることができた。

### 2. 大学院生インターンシップ

- 受入期間 平成14年10月1日～平成14年12月31日
- 参加者数 1大学院 1名
- 担当した研究員数 7人
- 事業内容 展覧会開催業務全般にわたる研修
- 特記事項 今年度初めて大学と覚書を交わし受入を実施したもので、今後は受入体制を整え希望があれば受け入れていきたい。

### 3. シンポジウム（（3）講演会等の事業に前掲）

- 特記事項 特記事項として、シンポジウム開始前から終了後にいたる運営に際して、立命館大学院生・学部生による協力が挙げられる。とりわけ大学院生たちには、専門知識と語学力を活かし、パネリストや同時通訳の方々の準備・進行を的確にサポートして頂いた。

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

大学院生インターンシップ受け入れは初めての試みであったが、期待以上の成果を上げることができたと評価できる。高い能力の人材であった故に、当館事業への実質的貢献も大きなものがあった。今後も慎重な事前調査の上で、優れた人材のインターンシップを受け入れていく予定とし、あわせて規程の整備を行う。

### 【見直し又は改善を要する点】

博物館実習生の受け入れについては例年にも増して多数の応募があり、当館の実施内容が高い評価を受けているものと思われる。しかし当館の施設・人員に鑑み、41人の受け入れは物理的限界を超えていることは明らかである。次年度からは実施内容の質を維持するために、当館に関連する近・現代美術を専攻する学生を対象とし受講者数を縮小して実施する予定である。

次年度からは当館の展覧会と施設を使って、大学院生の自主的運営によるワークショップの開催など、大学との連携をよりいっそう強めていきたい。

### (3) - 3 ボランティアの活用状況

#### 中期計画

(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。

#### 実績

##### 1. 活動内容

平成14年度は、日韓共催ワールドカップサッカー開催に合わせて、案内のための通訳ボランティアを導入

##### 2. 今後の取り組み

平成15年度は、これまでの検討を踏まえ、ボランティア導入の試行を行う。

##### 3. 特記事項

「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」を主催する京都市教育委員会と連携し、検討してきたが、今後も連携を図りながらボランティア導入の試行を行う。

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

ワールドカップサッカー開催にあわせて外国人来館者に対する語学(英語)ボランティアを京都市教育委員会主催の「京都博物館ふれあいボランティア養成講座」の協力で実施し、5月28日から7月7日までの金・土・日のうちの11日間に、延べ13名のボランティアを動員した。当館案内スタッフと協力し、1階受付にて外国人来館者への館案内及び館周辺の案内等に従事した。期間中、269名の外国人が来館したが、問題なくスムーズに対応することができ、好評を得た。

##### 【見直し又は改善を要する取組み】

15年度は14年度に実施した特別のイベント時における導入だけでなく、ボランティアによる入館者からの満足度・意見等の聞き取り調査の試行を行う。このボランティアについては、館独自に募集、養成するのではなく、14年度同様、京都市教育委員会と連携することにより、効率的に有用な人材を動員する。

## (4) 渉外活動

### 中期計画

(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

### 実績

#### (社)京都市観光協会との連携

(社)京都市観光協会が実施している「京都修学旅行パスポート」事業に協賛し、小中学生の入場料無料化とは別に「京都修学旅行パスポート」を持参の修学旅行の高校生を団体料金で入場できるようにした。また、受付にて絵はがきのプレゼントを、喫茶にて割引サービスを実施した。

#### 京都織物卸商業組合との連携

京都織物卸商業組合が実施している「京都きものパスポート」事業に協賛し、きもの産業の活性化及び入館者増を図るため、きもの着用者に特別展入場料金を団体料金で優待。

#### 京都市交通局との連携

京都市交通局が「スルッと関西」交通網を利用して実施する「京都1dayチケット」事業へ協賛し、当該チケット利用者に対し特別展料金を10%割引。

#### 京都市と京都陸上競技協会との連携

京都市と京都陸上競技協会とが実施する「京都シティーハーフマラソン」に協賛し、当該マラソン参加者に対し、共催展入場料金を団体料金扱いとした。

#### 京都市産業観光局との連携

京都市が制定した「伝統産業の日」に因み実施する事業に協賛し、きもの着用者を常設展料金を団体扱いとした。

#### (財)大阪21世紀協会との連携

(財)大阪21世紀協会が発行する関西で唯一の英・日併記の情報誌「MEET OSAKA」に関西地区の美術館、博物館が展覧会情報を掲載し、経済界と連携した広報活動を行い、日本を訪れる外国人の入場者増を図る。

#### 単独開催展覧会の前売券の発売

民間企業とのタイアップし、利用者のチケット入手の利便性を高めるとともに、入場者増を図った。

#### 共通観覧券の発売

当館、京都国立博物館、京都市美術館と連携して、3館共通観覧券の発売を行った。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

美術館事業を充実させるためには、企業、財団等からの研究・展覧会等への助成、後援、協力を得るなど積極的な企業等と連携を図ることが必要である。そのため広く企業等に対する美術館事業への理解の促進を図り、有効な事業展開、支援を得られるよう渉外活動に努めた。特に今年度は、各種団体とのタイアップによる優待料金の設定を行い入場者の増につながる活動を行った。また、(財)21世紀協会との連携により、外国人向けの情報誌に館の紹介をするなどし、日本を訪れる外国人への利便性を図った。

#### 【見直し又は改善を要する点】

企業との連携については毎年渉外活動に努めているが、観覧者の増をはかるためには全国的に活動する企業との連携が重要な検討課題であると考えている。

#### 【計画を達成するために障害となっている点】

次年度以降において、JAF(日本自動車連盟)とのタイアップを予定しているが、当館には車での利用者のための駐車スペースがない。現在同じ岡崎公園内にある市営駐車場との間で相互利用に関する連携の検討を行っている。

## 5 . その他の入館者サービス

### 中期計画

- (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。
- (1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。
- (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。
- (1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。
- (2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。
- (3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。

### 実績

#### 1 . 高齢者・身体障害者のための施設整備等 (1)-1

障害者トイレ	1 箇所 ( 1 階 1 箇所 )
障害者エレベータ	1 基
段差解消 (スロープ)	3 箇所 ( 正面玄関、喫茶室 )
貸出用車椅子	5 台 ( 座席昇降機能付き 2 台を含む )

#### 2 . 観覧環境の充実 (1)-2、(1)-4

##### ( 1 ) 音声ガイド

展覧会名	カンディンスキー展
貸出期間	平成 1 4 年 6 月 8 日 ~ 7 月 2 1 日
貸出件数	3, 6 7 0 件 ( 利用率 5. 5 % )
展覧会名	ウィーン美術史美術館名品展
貸出期間	平成 1 5 年 1 月 1 1 日 ~ 3 月 2 3 日
貸出件数	1 2, 3 5 5 件 ( 利用率 1 1. 9 % )

#### 3 . 夜間開館等の実施状況 (1)-3

##### ( 1 ) 夜間開館実施状況

ア . 開催日数	2 4 日間 ( 4 月 1 2 日 ~ 1 0 月 2 0 日 までの特別展・共催展開催期間中の金曜日午後 8 時まで )
イ . 入館者数	2, 6 6 9 人 ( 総入場者数 2 4, 3 6 8 人、夜間開館入場率 1 1. 0 % )
ウ . 実施日	4 / 1 2 , 1 9 , 2 6 , 5 / 3 , 1 0 , 1 7 , 2 4 , 6 / 1 4 , 2 1 , 2 8 , 7 / 5 , 1 2 , 1 9 , 8 / 2 , 9 , 1 6 , 2 3 , 3 0 , 9 / 1 3 , 2 0 , 2 7 , 1 0 / 4 , 1 1 , 1 8

##### ( 2 ) 小中学生の入場料の低廉化

独立行政法人国立美術館では平成 1 4 年 4 月 1 日から小中学生の常設展入場料を無料化したが、京都国立近代美術館ではこれに先駆けて、平成 1 4 年 2 月 2 1 日から実施するとともに、特別展についても同様とすることとした。共催展については共催者の了解の得られたものから無料化を実施することを決定し、平成 1 4 年度開催の全ての共催展で小中学生の無料化が実現した。

##### ( 3 ) ( 2 ) 以外の入場料金の取り組み方

- ア . 学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金の低廉化を検討。
- イ . ワールドカップ時の対応として、外国人旅行者に対し 5 / 2 8 ~ 7 / 7 の間、常設展料金を無料とした。

##### ( 4 ) その他の入館者サービス

#### 4 . アンケート調査(1)-3

調査期間	平成 1 4 年 1 1 月 1 2 日 ~ 平成 1 4 年 1 1 月 1 7 日 ( 6 日間 )
調査方法	調査票 5 0 0 部を配布、郵送による回答

アンケート回収数 91件

アンケート結果 立地、施設、展示内容については概ね70点の評価を得たが、観覧料金、接客では60点程度の評価であった。

5. 一般入館者等の要望の反映 (2)

京都国立近代美術館では、常時アンケート調査を実施しており、苦情、要望等への迅速な対応のほか、入館者のニーズの把握に努め、例えば、作品内容を解説した説明パネルを多く取り入れたり、キャプションの文字を見やすく大きくするなど展示に反映させている。

6. レストラン・ミュージアムショップの充実 (3)

喫茶室では、設備の改修を行うとともにメニューの充実をはかり、ミュージアムショップでは展覧会ごとにそれぞれに関連した書籍や一般の書店では手に入りにくい美術図書を豊富に取り揃え入館者のニーズに応えている。

7. 特記事項

アンケート結果の分析やモニター制度を検討するなどの指摘を受け、今年度の博物館学実習を終了した学生にモニターを依頼し的確な示唆を得ることができた。

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

入館者サービスは来館者の満足度を高める重要な要素の一つであるとともに、美術館のリピーターの増加といった点からも重要な課題である。

高齢者、身体障害者のための施設整備については、1986年の新館建設時に配慮されているが、その後も車椅子での鑑賞をスムーズにするため4階常設展示場の床の材質をカーペットからゴムタイルに改修したり、一階エントランスホールの照明を明るくするなどバリアフリー化に努めた。

鑑賞環境について、当館では作品展示に際して許す限り結界を設置しないで間近で鑑賞ができるようにしており、今年度についてもほぼ実施することができた。また、音声ガイドについては館独自のものはないが共催展では業者とのタイアップで実施することができ多数の方が利用され鑑賞者からは好評を得ている。

1988年より概ね4月から10月の毎週金曜日を夜間開館として午後8時まで時間延長している。これについては観覧者から好評を得ているが、常設展のみの期間については極端に利用者が少ないため、今年度より企画展の開催期間中に限って実施し、効率的な運営に心がけた。なお、今後とも夜間開館の時期、時間帯については、来館者のニーズに応えられるようアンケート調査等を注視して引き続き実施する。

独立行政法人国立美術館では平成14年度から小中学生の常設展入場料を無料化した。当館では特別展も同様とし、共催展については共催者の了解を得られたものから無料化を実施し、その結果、平成14年度開催の全ての展覧会で小中学生の無料化が実現した。これによって、小中学生の入場者が1.5倍となり、子供の頃から美術館に親しむ環境づくりに貢献ができた。また、平成15年度より常設展入場料の学生料金を大学生料金と高校生料金に区分し、高校生料金の低廉化を図ることとした。なお、これについても常設展に限らず全ての展覧会で実施できるよう努める。

一般入館者の要望等を把握するために常時アンケート調査を実施しており、苦情、要望等に対して迅速に対応している。

### 【見直し又は改善を要する取組み】

2000年8月より展示室以外は館内フリーゾーンとしている。1階エントランスホール、ロビー、喫茶、ミュージアムショップ及び4階の展望ロビーをフリーゾーンとしたことに伴い、フリーゾーンだけの利用者数が総入場者数の約20%あった。展覧会を鑑賞する目的以外の利用者が多数あり、開かれた美術館として今後とも一層のサービスの充実を図り、社会貢献を果たしていく方針であるが、さらに、この20%のフリーゾーンだけの利用者を展覧会入場者につなげる普及活動について取り組むことが検討課題であるとする。

美術作品の購入一覧(平成14年度)

館名:京都国立近代美術館

種別	作者	作品名	制作年	材質・形状等	寸法	備考
日本画	大野椒嵩	雑草	1956	板、紙本着色/額	174.5×180.0	第1回新人グループ展(第14回パリアル展)
日本画	神坂雪佳	暁の砧図	明治末	絹本着色/軸	140.0×50.0	
日本画	竹内栖鳳	海幸	1939	絹本着色/額	67.7×87.0	大阪高島屋店舗統合記念日本画展
日本画	竹内栖鳳	羅馬古城図	1901	絹本墨画淡彩/軸	126.8×51.5	
日本画	竹内栖鳳他23名	名家畫帖「画苑」	明治後期	絹本着色/画帖(24帖)	(各)20.3×28.3	題箋、題字及び箱書・富岡鉄斎
日本画	玉村方久斗	紅蜀葵	昭和初期	紙本着色/軸	129.0×44.5	
日本画	玉村方久斗	海中小戯	昭和初期	紙本着色/額	53.6×71.6	
日本画	玉村方久斗	金魚鉢	昭和初期	紙本着色/軸	135.0×52.5	
日本画	玉村方久斗	樹木と釣り糸	昭和初期	紙本着色/額	117.9×54.5	
日本画	玉村方久斗	白鷺図	昭和初期	絹本着色/軸	123.0×36.5	
日本画	玉村方久斗	軍鶏図	昭和初期	絹本着色/軸	122.5×41.8	
日本画	玉村方久斗	竹図	昭和初期	紙本着色/屏風(六曲一双)	(各)183.0×443.0	
日本画	玉村方久斗	手工卓静物	昭和初期	紙本着色/額	57.9×80.1	
日本画	玉村方久斗	富貴艸	昭和初期	紙本着色/軸	129.0×45.0	
日本画	玉村方久斗	海浜図	昭和初期	絹本着色/軸	127.3×41.2	
日本画	玉村方久斗	鶉図	昭和初期	紙本着色/軸	125.0×45.2	
日本画	玉村方久斗	春雷山雨将来之図	昭和初期	紙本着色/額	49.7×105.7	
日本画	玉村方久斗	春宵薄暮山谷之図	昭和初期	紙本着色/額	51.1×96.6	
日本画	玉村方久斗	葡萄図	昭和初期	絹本着色/軸	128.8×49.5	
日本画	玉村方久斗	街景(公園より)	昭和初期	紙本着色/額	50.0×95.2	
日本画	玉村方久斗	碓子と驟雨(梧桐)	昭和初期	紙本着色/軸	116.6×47.2	
日本画	玉村方久斗	碓子と驟雨(紅蜀葵)	昭和初期	紙本着色/軸	117.0×46.7	
日本画	都路華香	夜の雨	大正初期	絹本墨画淡彩/軸	156.5×70.9	
日本画	都路華香竹内栖鳳	春月図・秋月図	1902	絹本墨画/軸(双幅)	(各)123.8×50.0	
日本画	富岡鉄斎	煙波漁隠図	1913	絹本着色/軸	139.8×41.8	
日本画	富田溪仙	果物籠図	c.1920	絹本着色/軸	151.5×51.0	
日本画	富田溪仙	空也瀧	1921	絹本着色/軸	131.2×41.1	京洛四季展(高島屋美術館)
日本画	富田溪仙	大原女図	1926	絹本着色/軸	146.1×51.1	
日本画	西村五雲	風薫る	1938	絹本着色/軸	159.0×50.9	京都美術倶楽部創立30周年記念展
日本画	西村五雲	曲馬	c.1927	絹本着色/額	48.5×56.5	
日本画	西村五雲	喜雀図	c.1936	絹本着色/軸	57.5×72.3	
日本画	福田平八郎	鯉魚図	1931	絹本着色/軸	56.2×71.6	現代日本画展(米国トレード美術館)
日本画	山崎 隆	象	1939	紙本着色/額	71.1×51.8	歷程第1回試作展
油彩画	今井俊満	Work 1958	1958	麻布油彩、混合技法/額	149.4×166.9	個展(バリ・スタッドラー画廊)
油彩画	須田国太郎	夏の夕	1933	麻布油彩/額	71.5×89.5	第4回独立展(1934)
油彩画	宮本浩二	回帰の譜	1965	麻布油彩、プラスチック、撥墨剤/額	181.8×227.0	
陶芸	加藤土師萌	吹墨色絵菊花文飾壺	c.1963	陶器/壺	19.4×19.4×20.0(h)	
陶芸	八木 明	黒釉球入れ子蓋物	2000	磁器(19個)	最大:28.0×30.2(h)最小:0.3×0.3(h)	岡田茂吉賞展(MOA美術館)
陶芸	八木一舂	均窯金魚置物	c.1960	陶器	17.5×9.7×9.8(h)	
陶芸	八木一舂	均窯紅斑茶碗	c.1960	陶器	13.6×13.6×7.6(h)	
陶芸	八木一夫	ノ一	1972	陶器	15.3×22.3×3.9(h)	
陶芸	八木一夫	白書	1972	陶器	20.5×27.4×4.5(h)	
陶芸	八木一夫	黒陶鳥	1965	黒陶(木製台付き)	31.7×6.7×22.3(h)	
染織	福本潮子	光の影	1995	麻、紙布、藍染	185.0×150.0	個展(辰野美術館、1996)
版画	浅野弥衛	サーカスのテント B	1973 - 93	エッチング	17.8×23.6	

美術作品の購入一覧(平成14年度)

館名:京都国立近代美術館

種別	作者	作品名	制作年	材質・形状等	寸法	備考
版画	浅野弥衛	線の軌跡 1	1973 - 88	エッチング	23.7 × 17.9	
版画	浅野弥衛	ハムラビ法典 7	1973 - 93	エッチング	23.8 × 17.7	
版画	浅野弥衛	ハムラビ法典 12	1974 - 93	エッチング	23.6 × 17.9	
版画	浅野弥衛	桐の木の見える窓	1974 - 88	エッチング	23.6 × 17.6	
版画	浅野弥衛	勇者の旗	1974 - 94	エッチング	23.8 × 17.8	
版画	浅野弥衛	勇者の旗	1974 - 93	エッチング(凸版)	23.9 × 18.0	
版画	浅野弥衛	海の城	1974 - 93	エッチング	36.0 × 23.7	
版画	浅野弥衛	Work 5	1974 - 94	エッチング	23.8 × 36.3	
版画	浅野弥衛	バリ	1974 - 93	エッチング	23.7 × 17.7	
版画	浅野弥衛	Work 11	1974 - 94	エッチング	23.8 × 29.8	
版画	浅野弥衛	Work 25	1974 - 94	エッチング	23.8 × 17.7	
版画	浅野弥衛	Work 34	1975 - 88	エッチング	17.8 × 23.6	
版画	浅野弥衛	Work 36	1975 - 93	エッチング	17.8 × 23.6	
版画	浅野弥衛	Work 46	1975 - 88	エッチング	23.7 × 17.6	
版画	浅野弥衛	Work 51	1975 - 87	エッチング	23.6 × 17.8	
版画	浅野弥衛	Work 52	1975 - 93	エッチング(凸版)	23.9 × 17.9	
版画	浅野弥衛	Work 78	1976 - 94	エッチング	23.6 × 17.6	
版画	浅野弥衛	Work 89	1977 - 88	エッチング	23.4 × 17.7	
漆工	岡田章人	彫漆木瓜之図管	1963	彫漆	17.7 × 30.4 × 15.2(h)	
漆工	岡田章人	蒔醬彫漆「條」棚	1963	蒔醬彫漆	38.5 × 152.0 × 70.5(h)	第3回日展(特選)
漆工	鈴木雅也	連鎖するかたち	1972	アクリル、漆	65.0 × 117.5 × 65.0(h)	第11回日本現代工芸展(日本現代工芸賞)
漆工	鈴木睦美	真塗蓋物付内銀楕円大鉢	1999	木、漆	蓋物:6.6 × 6.6 × 8.0(h) 大鉢:70.0 × 50.0 × 18.5(h)	個展(銀座・和光)
木工	中川清司	神代杉木画箱	2001	神代杉、木画	30.7 × 23.0 × 11.5(h)	第30回日本伝統工芸近畿支部展
木工	村山 明	櫻拭漆大飾棚	2000	櫻、拭漆	43.0 × 150.0 × 112.0(h)	個展(日本橋・三越)
写真	ユージン・スミス	助産婦(NM144)	1951	ビラチン・シルバー・プリント	34.0 × 23.2	
写真	ユージン・スミス	助産婦(NM140)	1951	ビラチン・シルバー・プリント	32.5 × 22.6	
写真	ユージン・スミス	助産婦(NM177)	1951	ビラチン・シルバー・プリント	34.0 × 26.5	
写真	ユージン・スミス	助産婦(NM147)	1951	ビラチン・シルバー・プリント	26.5 × 25.2	
写真	ユージン・スミス	助産婦(NM95)	1951	ビラチン・シルバー・プリント	32.5 × 21.5	
写真	ユージン・スミス	助産婦(NM158)	1951	ビラチン・シルバー・プリント	33.5 × 26.0	
写真	ユージン・スミス	助産婦(NM152)	1951	ビラチン・シルバー・プリント	26.5 × 33.8	
写真	ユージン・スミス	助産婦(NM7)	1951	ビラチン・シルバー・プリント	33.8 × 26.5	
写真	ユージン・スミス	助産婦(NM26)	1951	ビラチン・シルバー・プリント	34.0 × 26.5	
写真	ユージン・スミス	助産婦(NM54)	1951	ビラチン・シルバー・プリント	26.2 × 33.8	
その他	フィオナ・タン	ゆりかご	1998	16mm映画によるインスタレーション		STILL \ MOVING(当館、2000)
その他	アリア・ファミス	リミックス・ビルディング:病院付きの映画館、ロサンゼルス	1999	Cプリント/パネル(2枚組)	(各)100.0 × 100.0	STILL \ MOVING(当館、2000)
その他	アリア・ファミス	リミックス・ビルディング:地下鉄駅の共同墓地、シャトル、ハリ	1999	Cプリント/パネル	111.0 × 247.0	STILL \ MOVING(当館、2000)
その他	アリア・ファミス	リミックス・ビルディング:24時間空調の待合室のある火葬場、ハリ	1999	Cプリント/パネル	100.0 × 87.0	STILL \ MOVING(当館、2000)
その他	アリア・ファミス	リミックス・ビルディング:記念銘記の付いたアートハウス、ハリ	1999	Cプリント/パネル	100.0 × 100.0	STILL \ MOVING(当館、2000)
油彩画	山田正亮	WORK C.102	1961-62	麻布油彩	162.0 × 114.0	
日本画	下村良之介	月明を翔(孚)	1988	紙粘土、紙、顔料/額	126.0 × 247.5	個展(ギャラリーなかむら)
日本画	都路華香	遊魚図	c.1892-97	紙本着色/屏風(六曲一双)	(各)151.6 × 312.0	
日本画	堂本尚郎	日曜日のシャルトル	1953-54	紙本着色/未装	136.2 × 166.5	第5回京展(1953)

美術作品の購入一覧(平成14年度)

館名:京都国立近代美術館

種別	作者	作品名	制作年	材質・形状等	寸法	備考
日本画	堂本尚郎	魚の店	1954	紙本着色/未装	130.5 × 162.0	第1回現代日本美術展
油彩画	文承根	無題	1980	麻布、アクリル/額	90.8 × 72.8	右下にサイン
陶芸	藤本能道	緑釉彩花器	c.1959	陶器	18.3 × 18.0 × 29.0(h)	
その他	文承根	活字球	1973	エクストメチア/活字球、紙(額)	活字球:10.5 × 10.5 × 10.5 紙:(額)45.7 × 37.4	個展(ギャラリー・シグナム)
日本画	村上華岳	鯨	1925	絹本着色/軸	37.5 × 51.0	
陶芸	加守田章二	花瓶	c.1968	陶器	11.5 × 11.5 × 25.5(h)	
陶芸	加守田章二	曲線彫文壺	1973	陶器	23.0 × 16.0 × 48.0(h)	

美術作品の寄贈一覧(平成14年度)

館名:京都市立近代美術館

種別	作者	作品名	制作年	材質・形状等	寸法	備考
日本画	奥谷秋石	松溪風雪遊鹿山水之図	明治後期	絹本着色/軸	193.4×86.9	
油彩画	孫 雅由	記憶の痕跡	1984	鉛筆、紙/パネル	112.0×145.0	
油彩画	孫 雅由	自立する色	1991	油彩、綿布/額	130.5×194.0	
油彩画	孫 雅由	マリブール-インブル- または空間の間合い AC99-21	1999	木炭、顔料、アクリル、綿布/額	194.0×522.0	今日の作家展(大阪府立現代美術センター、2000)
油彩画	宮本浩二	土の掟	1962	綿布油彩、プラスチック、接着剤/額	162.1×130.3	
資料	錦光山窯	「繪圖帖」	明治時代	紙、墨、ペン/画帖(14冊)	30.2×22.3×2.0(h)	
陶芸	17代永樂善五郎	金銀彩花入「流光」	1994	陶器	29.0×26.0×40.0(h)	個展(京都・高島屋)
陶芸	叶 哲夫	釉描三方器	c.1948	陶器	28.0×13.0×29.0(h)	
陶芸	叶 敏	オブジェ	c.1950	陶器	29.5×29.5×32.0(h)	
陶芸	叶 道夫	梨	1990	陶器	37.0×43.0×47.0(h)	
陶芸	辻 勘之	羽気遣え	1998	練込/陶器	19.0×30.0×38.0(h)	
陶芸	寄神宗美	Re-Creations・壺ノカタチ	1993	磁器(2点組)	(各)78.6×78.6×190.0(h)	個展
染織	中堂憲一	豊漁	1955	綿布、絹染め/屏風(二曲一巻)	182.0×165.0	第11回日展
染織	中堂憲一	風車	1961	綿布、絹染め/屏風(二曲一巻)	185.0×168.0	第4回新日展
染織	中堂憲一	陽	1963	綿布、絹染め/額	80.0×156.0	第2回日本現代美術展
染織	皆川泰蔵	洛北大原寂光院旅愁	2000	麻布、絹染め/額	159.1×137.5	第32回日展
漆工	久保金平	赤日	1964	漆/パネル	119.5×91.0	第7回新日展
木工	村山 明	櫨拭漆輪華盤	2000	櫨、拭漆	42.7×42.7×6.2(h)	個展(日本橋・三越)
日本画	岡村宇太郎	猿図	昭和初年	絹本着色/軸	54.4×64.2	小松 均 旧蔵
資料	北沢映月	鉄仙	c.1963	紙本着色/色紙	26.8×23.7	
資料	富本憲吉	山帰来陶板図と自作詩句	1949	紺紙、金描/額	19.5×24.9	
資料	富本憲吉	色絵牡丹大皿	1954	磁器	40.0×40.4×6.0(h)	
日本画	伊藤仁三郎	日本画14点				
日本画	下村良之介	月明を翔く(壺)	1987	紙粘土、紙、顔料/額	123.0×224.0	
日本画	野沢如洋	松竹梅(三幅対)	昭和初期	紙本墨画/軸	(各)152.0×82.5	
水彩画	文承根	無題	1978	紙、水彩/まくり	63.2×90.6	右下にサイン
水彩画	文承根	無題	1978	紙、水彩/まくり	63.2×90.6	右下にサイン
水彩画	文承根	無題	1978	紙、水彩/まくり	63.2×90.6	右下にサイン
水彩画	文承根	無題	1980	紙、水彩/まくり	63.2×90.6	右下にサイン
水彩画	文承根	無題	1980	紙、水彩/まくり	63.2×90.6	右下にサイン
素描	伊藤仁三郎	素描100点				
版画	伊藤仁三郎	版画34点				
版画	長谷川潔	『転身の頃』(日夏耿之介第一詩集)	1917	本	21.2×20.2	
版画	長谷川潔	「長谷川潔の肖像」(「現代版画の巨匠」シリーズ マヌエル・ブルックール社刊)	1963	本	33.0×25.2	
版画	棟方志功	釈迦十大弟子	1939	紙、木版/額(12面)	101.5×38.0	
陶芸	鈴木 治	埃及の馬	1990	陶(2点組)	(209×140×48)(97×215×102×70)(h)	
陶芸	七代清水六兵衛	截土容香炉	1997	磁器	11.0×11.4×23.0(h)	
陶芸	七代清水六兵衛	截土容黒耀一輪挿 五拾壱	1998	磁器	30.7×27.4×7.0(h)	
染織	北村武資	透文羅	2000	羅/額	68.0×68.0	
染織	三浦景生	着物	1959	臈織染	126.0×152.0	
資料	坂本繁二郎	書簡(西川和男宛)	1954	紙、ペン/軸	22.1×31.6	
その他	横尾忠則	ポスター80点				
版画	小林清親	柘榴に葡萄	不詳	紙、木版/まくり	24.4×37.5	
版画	琴塚英一	雨夜	1960-69	紙、木版/マット	27.3×39.5	
版画	琴塚英一	嵐山翠雨	1960-69	紙、木版/マット	39.3×26.2	

美術作品の寄贈一覧(平成14年度)

館名:京都国立近代美術館

種別	作者	作品名	制作年	材質・形状等	寸法	備考
版画	琴塚英一	法隆寺夢殿	1960-69	紙、木版/マツト	39.8 × 26.5	
版画	琴塚英一	薬師寺之塔	1960-69	紙、木版/マツト	39.8 × 26.5	
版画	津田青楓	図案	1910-30	紙(布)、木版/まくり(台紙紙粘、金印)	台紙寸法:(各)29.5 × 43.2	
版画	山村耕花	女	c.1920	紙、木版/まくり	39.6 × 27.3	
陶芸	井内芳樹	青瓷鉢	c.1985	陶器	45.0 × 45.0 × 22.5(h)	
陶芸	加守田章二	皿	c.1968	陶器	23.5 × 23.5 × 6.5(h)	
陶芸	加守田章二	灰釉花瓶	c.1966	陶器	9.0 × 9.0 × 20.5(h)	
陶芸	加守田章二	花瓶	c.1964	陶器	33.5 × 33.5 × 32.5(h)	

修理した美術作品の一覧(平成14年度)

館名:京都国立近代美術館

種別	作者名	作品名	備考
日本画	三木翠山	猿猴図	
日本画	吹田草牧	春日山晚秋	
日本画	榊原始更	崖	
日本画	徳岡神泉	鯉	
日本画	徳岡神泉	筒井筒	
日本画	山口八九子	山村逐牛図	
日本画	山口八九子	川漁	
日本画	西村五雲	曲馬	
日本画	玉村方久斗	街景(公園より)	
油彩画	水木伸一	葉子横臥像	
油彩画	水木伸一	姉弟	
油彩画	津田青楓	風景	
油彩画	村井正誠	人びと	
木工	黒田辰秋	拭漆文観木飾棚	

調査研究一覧

館名：京都国立近代美術館

1. 収蔵品の調査研究

名称	研究者名	内容	外部研究者との交流実績	研究成果の公開(図録・研究紀要・セミナー・シンポジウム)	備考
長谷川潔作品についての再調査及び研究	内山武夫、島田康寛	データについての再調査(特に制作年代の確認)	なし	『京都国立近代美術館所蔵[長谷川潔作品集]』(京近美編;光村推古書院発行 2003.3月刊)	
日本画作品についての再調査及び研究	内山武夫、島田康寛、河本信治、山野英嗣、松原龍一、尾崎信一郎、池田祐子、小倉実子	データについての再調査(特に制作年代の確認)	なし	『京都国立近代美術館所蔵名品集[日本画]』(京近美編;光村推古書院発行 2002.3月刊)	
秦テルヲ資料についての調査研究	島田康寛、小倉実子	スケッチ60葉、スケッチブック40冊、戦中絵日記33葉、日記1冊、スクラップブック1冊、テルヲ宛書簡等12件、資料写真32葉等についてデジタルカメラによって撮影及びコピーをし、解読をすすめ、年譜を整備するとともに伝記的調査を行う。	なし	平成15年度開催予定の「異端画家・秦テルヲの軌跡」展及び同展図録で公表予定	

2. 展覧会のための調査研究

名称	研究者名	内容	外部研究者との交流実績	研究成果の公開(図録・研究紀要・セミナー・シンポジウム)	備考
近代京都の工芸に関する調査研究	松原龍一	未調査であった並河家に残る靖之作品を調査し、2003年4月に開館する並河靖之七宝記念館の開館準備に協力する。	並河靖之七宝記念館開館準備室 前久夫	京都国立近代美術館で開催した(2003.1/21~3/2)『近代七宝の美 並河靖之の技 -』展及び同展リーフレット	
アメリカの現代陶芸に関する調査研究(愛知県陶磁資料館等との共同研究)	内山武夫、松原龍一	1950年代から90年代にかけて活躍したアメリカの陶芸作家に付いて調査し、世界の現代陶芸をリードした戦後アメリカ陶芸の諸相について調査研究を行う。	愛知県陶磁資料館 唐澤昌宏、佐藤一信 / 世田谷美術館 清水真砂 / 茨城県陶芸資料館 外館和子 / 新潟県新美術館開設準備室 藤田裕彦	『アメリカ現代陶芸の系譜1950-1990』展及び同展図録	
ドイツ工作連盟に関する調査研究	池田祐子	20世紀前半のドイツにおいて、デザイン改革運動に決定的役割を果たしたドイツ工作連盟の活動を、世紀転換期の日本及びイギリスと深い繋がりを持ち工作連盟のイデオログとして大きな影響を与えたヘルマン・ムテジウスとの関係から、展覧会・出版活動を中心に再構築し、近代デザイン成立史に新たな視点を導入すべく調査研究を行った。	工作連盟資料館 アンナ・マイクラ / ロンドン大学講師 フレデリック・J・シュワルツ / ピューリッツァ財団美術館館長 ローリー・A・スタイン / アーヘン工科大学講師 フェドル・ロート / 日本大学講師 田所辰之助	『ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作連盟:ドイツ近代デザインの諸相』展及び同展図録、シンポジウム「ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作連盟 - その歴史的な位置づけと現代的意義について」で考察	
海外所在の近代日本美術品についての所蔵美術館との調査研究	内山武夫、島田康寛、松原龍一、小倉実子	韓国国立中央博物館に所蔵されている旧李王家コレクションであった日本美術品について調査研究し、収蔵経緯や美術史的意味を考察する。	韓国国立中央博物館 / 東京芸術大学大学美術館 竹内順一、薩摩雅登、横溝廣子	平成15年度開催予定の『韓国国立博物館所蔵 日本近代美術展』及び同展図録で公表予定	

神坂雪佳の総合的研究(アメリカ・バーミングハム美術館との共同研究)	池田祐子	琳派を継承する画家として評価され、戦後数多くの作品が海外の所蔵家の手元に渡った雪佳の工芸図案家としての活動にも焦点をあて、絵画・工芸という両分野を自由に横断する雪佳芸術の全体像について調査研究を行う。	京都市立芸術大学名誉教授 榊原吉郎 / 京都市工業試験場産業工芸部長 佐藤敬二、同研究員 比嘉明子 / バーミングハム美術館学芸課長、ドナルド・A・ウッド / 美術史家 オードリー・セオ / 美術史家 ターニャ・フェレット・スティール	平成15年度開催予定の『神坂雪佳展 - 琳派の継承者・近代デザインの先駆者』及び同展図録で公表予定	
秦テルヲの総合的研究(笠岡市立竹喬美術館との共同研究)	島田康寛、小倉実子	明治末から昭和前期にかけて活動した異色日本画家秦テルヲの足跡を明らかにし、その芸術を初めて紹介するとともに、彼が生きた時代相をさぐるための調査研究。	笠岡市立竹喬美術館 上園四郎 / 練馬区立美術館 野地耕一郎	平成15年度開催予定の『異端の画家・秦テルヲの軌跡』展及び同展図録で公表予定	
横尾忠則の総合的研究	河本信治	作者自身が、自作と対話しながら、自作の中の重要な幾つかのイメージ展開を分析し、ポスターなどのグラフィック、絵画、オブジェなど過去に制作された膨大な数の作品から作者自身が約150点を選び出し、新たに制作される約20点を加えて展覧会を構成するにあたり、作業をともにすることにより横尾の創作活動の現場に立ち会いその発想の源をさぐる。	横尾忠則	平成15年度開催予定の『自作との対話・横尾忠則による横尾忠則展』及び同展図録で公表予定	
中央アジアの染織を中心とする工芸の調査研究	内山武夫、河本信治	ウズベキスタン等中央アジアの染織を中心とする工芸を調査し、日本の工芸との比較を行う。	ウズベキスタン国立工芸博物館	近い将来において開催を予定している『ウズベキスタンの工芸展』及び同展図録で公表予定	